

# 市内遺跡発掘調査報告書

(平成30年度)

—長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書—

2019. 3

長野県諏訪市教育委員会

## 例 言

1. 本書は長野県諏訪市に所在する遺跡についての平成30年度発掘調査報告書である。
2. 調査主体者は諏訪市教育委員会であり、各作業及び本書編集は諏訪市教育委員会事務局が担当した。
3. 現地調査期間は遺跡ごとに記載した。整理作業は平成30年12月から平成31年3月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。
4. 発掘作業と整理作業の分担は下記の通りである。  
発掘・遺構等実測…児玉利一・関沢佳久・中川聡史・増澤道夫・古畑しずゑ  
遺物水洗・注記・実測・トレース・採拓・写真撮影・本書執筆作成…児玉
5. 各遺跡の調査記録は諏訪市教育委員会で保管している。略称・出土遺物の注記は下記の通りである。  
温泉寺横遺跡…OSJY3 鎌ヶ池遺跡隣接地…KMG 清水遺跡…SSMA11  
高島城跡…TAKJ 精進湯跡…SJY
6. 温泉寺横遺跡出土黒耀石について、蛍光X線分析による産地推定を池谷信之氏（明治大学黒耀石研究センター）に業務委託して実施した。また、同遺跡出土石器10点の実測（報告書掲載図作成）を株式会社アルカに業務委託して実施した。
7. 発掘調査および報告書作成に際し、下記の方々をはじめ多くの方々にご指導・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。  
池谷信之 川端典子 小林公明 佐々木潤 高見俊樹 寺内隆夫 中島透 藤森英二 三上徹也  
宮坂 清 百瀬一郎 守矢昌文 柳川英司  
臨江山温泉寺 温泉寺檀徒会 長野県近世城郭・城下町研究会（敬称略）

## 凡 例

1. 本文中における水系レベルは可能な限り絶対標高を使用した。
2. 本文中第1図は国土地理院平成15年12月1日発行1/50,000『諏訪』と、平成11年1月1日発行1/50,000『高遠』を使用し、加筆した。第7図は同じく国土地理院平成24年9月1日発行1/25,000『霧ヶ峰』を使用し、加筆した。上記以外は諏訪市役所発行の都市計画基本図を使用した。
3. 遺物番号は実測図版と写真図版で一致する。
4. 遺物観察表の法量欄で、( )は推定復元値である。
5. 執筆者間での用語の統一は行っていない。

# 目 次

例言・凡例

目次

I	市内遺跡発掘調査について	1
II	温泉寺横遺跡（第3次）	3
III	温泉寺横遺跡出土石器の黒曜石原産地推定2	10
IV	鎌ヶ池遺跡隣接地（第1次）	16
V	清水遺跡（第11次）	19
VI	高島城跡（工事立会い）	26
VII	精進湯跡（工事立会い）	30
写真図版		33

報告書抄録・奥付



# I 市内遺跡発掘調査について

## 1 今年度の発掘調査

諏訪市内には現在 240 箇所以上の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらの包蔵地内における開発行為は例年発生しているが、以前に多かった規模の大きな開発事例は年々少なくなり、近年では個人住宅建設などの小規模なものが主体となっている。諏訪市教育委員会ではこれらの開発行為に迅速に対応するため、国庫補助事業として「市内遺跡発掘調査等事業」を実施し、埋蔵文化財の保護を図っているところである。

本年度の埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に伴う文化財保護法による発掘届および通知の提出は 14 件あった。件数は昨年と同程度の数である。また、土地開発や売買に関連した事前の有無確認調査の要望もあった。これらのうち、3 件について試掘・確認調査を実施し、本書でその内容について報告したい（第 1 図）。

文化財保護法第 94 条通知の保護措置として工事立会いを実施した高島城跡本丸内での排水管敷設替え工事に伴う立会い調査では、中世から近世にかけての遺物が出土したことから本書において報告する。また、未周知ではあるが、近世城下町遺跡の分布する可能性があった「諏訪市営精進湯ビル」の解体工事に際して立会い調査を実施したところ、近世遺物の出土があったためこれも本書にて報告する。

### ・補助事業決定の経過（抄）

平成 30 年 2 月 7 日付け 29 生学文第 66 号

平成 30 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書

平成 30 年 4 月 2 日付け 29 庁財第 635 号（長野県教育委員会指令 30 教文第 1-36 号）

平成 30 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知書

## 2 調査組織

調査組織名 諏訪市教育委員会

調査主体者 小島 雅則（教育長）

事務局 土田 雅春（教育次長）

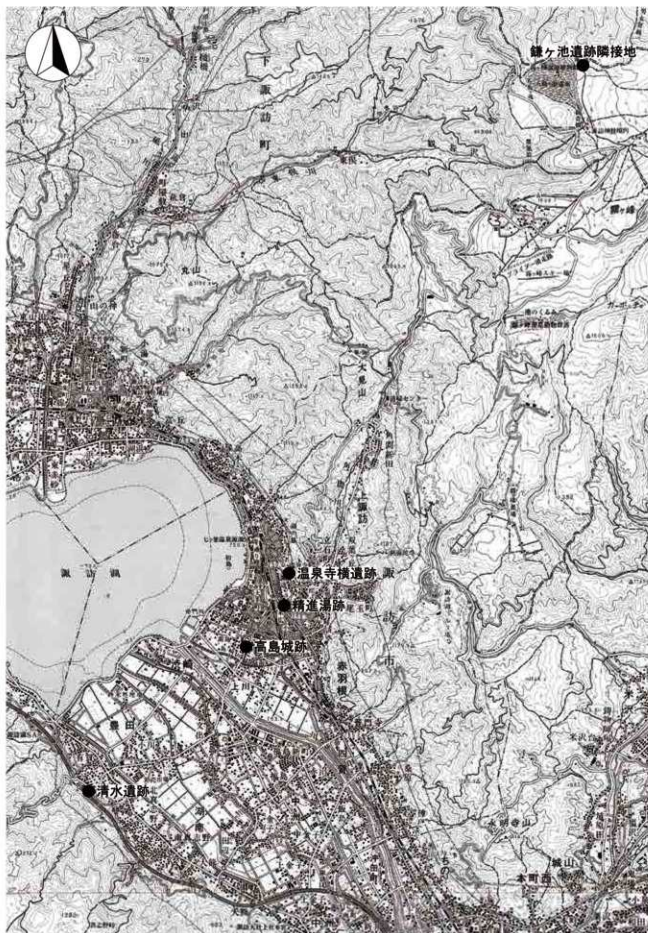
小林 純子（生涯学習課 課長）

関沢 佳久（生涯学習課文化財係 係長）

中川 聡史（生涯学習課文化財係 主査）

見玉 利一（生涯学習課文化財係 主査 調査担当者）

調査参加者 古畑 しずゑ・増澤 道夫・大杉 武史



第1図 平成30年度調査遺跡位置図 (S=1/60,000)

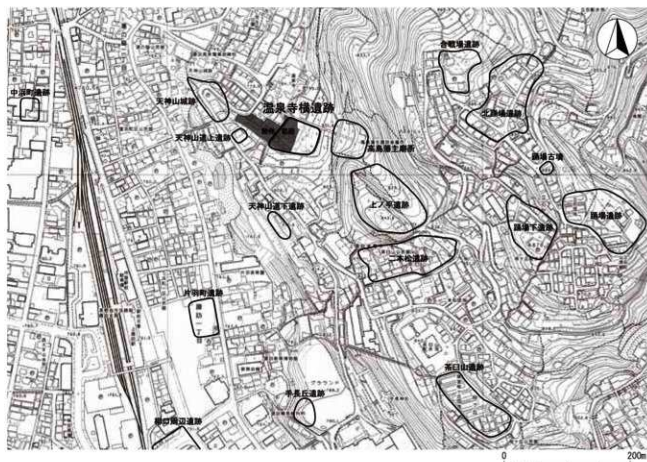
## II 温泉寺横遺跡（第3次）

- |                                   |                         |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1. 所在地 諏訪市湯の脇一丁目 10690-1 他        | 4. 調査目的 駐車場建設に係る試掘・確認   |
| 2. 調査期間 平成 30 年 4 月 23 日～4 月 27 日 | 5. 検出遺構 なし              |
| 3. 調査面積 10 ㎡                      | 6. 出土遺物 石器（旧石器）、陶磁器（近世） |

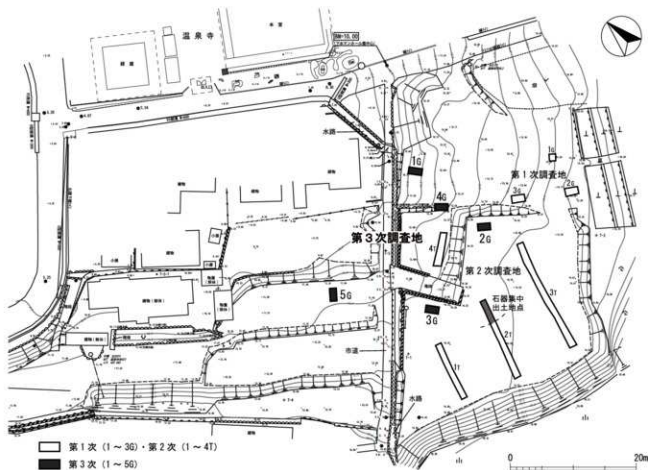
### 7. 遺跡概要及び調査概要

温泉寺横遺跡は諏訪湖東岸の霧ヶ峰西麓末端にあたる解析谷内に所在する（第 2 図）。北西方向に開口する谷で、西側は天神山城跡の所在する鋭く突き出した丘陵尾根、東は立石町・茶臼山地区の所在する丘陵に挟まれる。遺跡の北側には江戸時代に高島藩二代藩主の諏訪忠恒によって創建された臨江山温泉寺の境内が広がる。谷を東に登ると近世大名家墓所の国史跡「高島藩主諏訪家墓所」が所在し（諏訪市教委 2013）、さらに登った先には上ノ平遺跡がある（杉原 1973、諏訪市教委 1996）。

遺跡は温泉寺から藩主家墓所へつづく登り坂の参道沿い右側（南側）で、現況は墓地と小さな畑が混在している。旧石器時代の尖頭器や剥片が採集されていたことから埋藏文化財包蔵地となっていたが、近年まで発掘調査されたことはなかった。平成 28 年頃から温泉寺による来訪者駐車場の整備計画が進行中で、市道東側の土地について、北側を平成 28 年 9 月（第 1 次）、南側を平成 29 年 2 月末から 3 月（第 2 次）の 2 回に分けて試掘調査を行った（第 3 図）。その後、駐車場の範囲や構造・造成方法などについて変更があり、最終的な工事計画に応じて追加で確認すべき範囲が発生したことから、第 3 次調



第 2 図 温泉寺横遺跡位置図 (S=1/6,000)



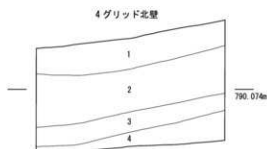
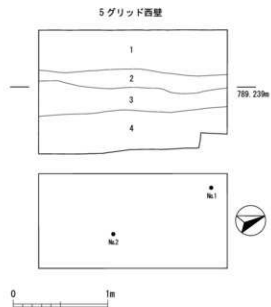
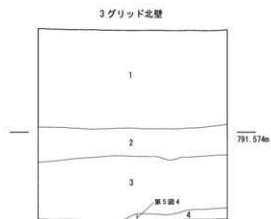
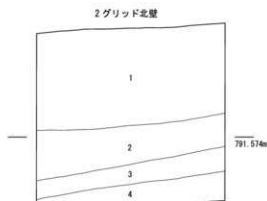
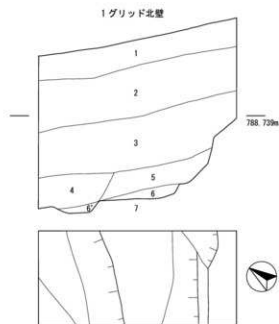
第3図 調査地全体図 (S=1/600)

査を実施した。

第2次調査以降に変更となった工事内容として、狭小で歩行者の通行のみ可能であった丘陵尾根上に通じる諏訪市道を車両の通行できる幅員に拡幅する。また、市道西側の荒蕪地約1,400 m<sup>2</sup>についても駐車場として造成することになった。これを受け、市道拡幅により切土される部分と、包蔵地範囲外であった市道西側の遺構等分布確認を目的とした試掘・確認調査を平成30年4月23日から27日にかけて実施した。その結果、記録保存調査の必要はないものの、遺物が出土する可能性は高かったことから、切土工事の際には工事立会いを行うこととし、記録作成と遺物の採集を6月から9月にかけて、断続的に実施した。

第3次調査では1m×2mの試掘坑を5箇所設定し、人力により掘り下げを行った。その結果、第2次調査で確認された石器集中出土は今回の範囲には検出されず、表土以下の各層で散漫に剥片や未成品などが出土した。2グリッド黒色土の下位では縄文土器の小片が出土した。また、わずかであるが江戸時代前半まで遡りえる陶磁器片が出土・採集した。

1グリッドではローム土を掘りこんだ痕跡が確認された(第4図)。いくつかの掘り込みがあるようで、わずかな平坦面をもって下がる。西端の最下面では湧水があり、自然堆積の砂質ローム土まで達したが、黒曜石は含まれていなかった。掘り込み底の堆積は水成堆積によるような砂と小石による堆積で、6図12の磁器片が含まれていた。掘り込みの性格と時代については、調査範囲が狭く、また水路脇の法面で拡張も難しかったことから判然としない。掘り込み底の磁器は江戸時代の前半に遡る可能性があり、掘り込みの年代も近世の可能性もある。溝にもなり得る掘方だが、現在の市道や並走する水路から、江



1 グリッド北壁断面

層	色	層	土質	粘性	しまり	遺人物・特徴など
1	緑褐色	細砂	ややあり	ふつ	表土、ゴリ含む	
2	緑褐色	細砂	ややあり	ふつ	3層境で石がまばらに入る	
3	緑褐色	細砂	ややあり	あり	均質、自然堆積に見えるが層境が厚い(1層は緑褐色)	
4	緑褐色・黄褐色	細砂	ややあり	あり	ローム起源入する	
5	緑褐色	細砂	ややあり	ややなし	礫石が石まるとる、サツワラ、入れ込みだが	
6(厚)	黄褐色	細砂	粗い	あり	均質で石が多量含む、水が透し、石で隙間が6割は詰土、底からの遺土	
7	黄褐色	細砂	ややあり	あり	堆山のローム土、上層はツツアロームで厚くなる。礫砂質に変化	

2 グリッド北壁断面

層	色	層	土質	粘性	しまり	遺人物・特徴など
1	黒・黄褐色	細砂	ややあり	ふつ	造成土、石・磁石、細砂で分解すると砂質になるが同色層として、2層境は比較的水平	
2	黒褐色	細砂	ややあり	ややあり	自然堆積の黒色土、砂土が、黒褐色砂がまばらに含む	
3	緑褐色	細砂	ややあり	ややあり	ローム土兼砂土、黒褐色砂を含む	
4	緑褐色	細砂	ややあり	あり	ローム土上層、ツツアロームに石を多く含む、おぼろに砂粒、遺物なし	

3 グリッド北壁断面

層	色	層	土質	粘性	しまり	遺人物・特徴など
1	黒	細砂	ややあり	ややなし	造成土、表土にロームを含む、水浸層層あり	
2	黒褐色	細砂	ややあり	ややあり	自然堆積黒土とみられるが礫物が多い(古では礫層)	
3	黒褐色	細砂	ややあり	ややあり	3かいている可能性あり	
4	黒褐色	細砂	ややあり	ややあり	2層より礫物が多い、自然堆積	
4	黄褐色	細砂	ややあり	ややあり	ローム土兼砂土中の上層、SISが出土	

4 グリッド北壁断面

層	色	層	土質	粘性	しまり	遺人物・特徴など
1	黒	細砂	ややあり	なし	表土、元耕作土	
2	黒	細砂	ややあり	ふつ	表土におおがらに黄褐色砂を含む	
3	黒褐色	細砂	ややあり	ふつ	ローム土兼砂土、石を含む	
4	緑褐色	細砂	ややあり	ややあり	ローム土上層、ツツアロームに石を含む	

5 グリッド西壁断面

層	色	層	土質	粘性	しまり	遺人物・特徴など
1	緑褐色	細砂	ややあり	ふつ	表土、元耕作土、造成土	
2	黒褐色	細砂	ややあり	ふつ	黒色土、1層境は赤褐色薄い層境、水浸り土の沈積	
3	緑褐色	細砂	ややあり	ややあり	色調のツツアローム、小児人糞の石が磁的に入る、磁石・磁土	
4	黄褐色	細砂	粗い	ややあり	黄褐色ローム土、やや均質でゴツゴツとしたものが起源入る、砂礫質ローム土	

第4図 調査グリッド平面図・断面図 (S=1/40)



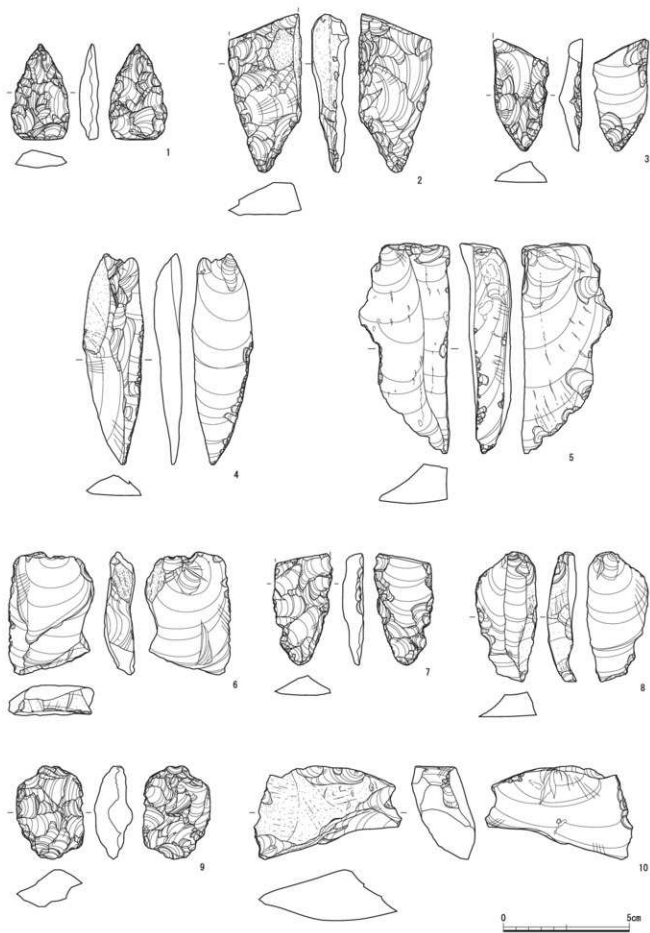
戸時代まで遡った道路のための開削や水路も考えられる。底に堆積していた砂はその傍証といえる。

5 グリッドでは、ローム土より黒曜石剥片が出土した。この遺物はこれまで石器が出土した黒色土との境辺りの漸移土やソフトロームではなく、ソフトローム土でも下位の堆積（3層）とさらに下位に堆積する砂質礫多量含有のローム土である（4層）。剥片は大型で尖頭器製作剥片とは異なっていることから、尖頭器より古手の資料と推定される。5グリッド全体で7点の出土と、遺構分布と言うには躊躇するような状況ではあった。ただし、市道西側では造成工事中にもローム土中から大きめの剥片が数点出土したことも合わせると、何らかの遺構・遺物分布があると考えても良いだろう。

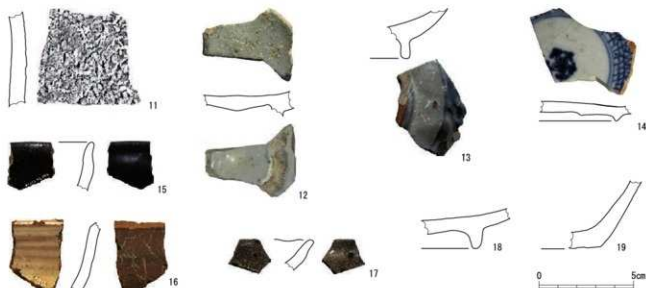
出土遺物について、その中心は黒曜石剥片と尖頭器未成品である。出土および工事立会い時に採集された黒曜石は204点、711.2gあった。出土は散漫で、定形石器は尖頭器である（第5図）。尖頭器は完形品に近いものから粗く整えられたものまであり、形状もばらつきがある。尖頭器以外では、4は縦長の剥片で使用痕が認められ、道具として使用されていたであろう。3グリッドの漸移土から出土。5・6は5グリッドのローム土3層から出土した剥片。同一母岩とみられ、風化しており従前知られていた尖頭器製作の時期よりも古いと考えられる遺物である。10は表採であるが5グリッド近くのローム土掘削土からの出土であり、5・6と同時期と推測される。8は市道東側のローム土中で出土し、尖頭器製作剥片ではなく表面風化から古手の遺物とみられる。なお、工事立会い中、東側上段の表土をすいた土から重量4.25kgある黒曜石の原石が出土した（写真図版2）。割られた破片の蛍光X線分析では和田鷹山群と判別され、肉眼観察でも球顆が入り細かな節理がみられる特徴は和田峠周辺のもので合致する。これほど大きな原石を旧石器・縄文時代人が本遺跡で保有していたとは考えにくく、また、平成28年まで建物があった造成地の表土からの出土であることから、現代人によって持ち込まれたものと推測する。黒曜石原産地に近く豊富な産出量を誇る当地域では、原始・古代人のみならず近・現代人にも好まれ頻繁に採集された。例えば庭や玄関・床の間などへの置物として一昔前はよく見られた。そのような性格のものであろうと考えたい。

第6図は旧石器以外の遺物である。11は2グリッドの黒色土中下位から出土で、粗く縄を転がし微細な繊維を含む破片である。縄文時代前期のものであろうか。縄文土器は全出土遺物中この1点だけである。近世とみられる磁器・陶器の小片が出土した。12は1グリッド最下層出土で、厚ぼったい施釉は気泡痕を発生させ、内面は摩耗している。14は江戸時代後期の蛇の目高台の皿である。15は天目壺の口縁部、16は唐津窯産とみられる刷毛目鉢の折縁部分だろうか。17は灰釉陶器のひだ皿口縁、19は焙烙であろうか。外面を細かくナゲ磨いている点が異質である。近世に遡るであろう遺物が確認されたが、非常に小さな破片ばかりで遺構としての把握はできなかった。

今次調査およびその後の工事実施時の立会いで出土・採集された黒曜石については、分析可能とみられた全点148点を池谷信之氏に依頼して蛍光X線分析法による原産地推定分析を行った（詳細は後述の報告による）。分析の結果、判別不可の13点を除いた135点のうち、129点（95.6%）が諏訪星ヶ台群、5点（3.7%）が和田鷹山群、1点が和田小深沢群であった。今次調査と同範囲内で実施した第1次・2次調査の出土黒曜石についても全点分析を実施しており（池谷2018）、370点中353点（95.4%）が諏訪星ヶ台群であった。合計して、505点中482点、95.44%が諏訪星ヶ台群という結果で、この傾向は温泉寺横遺跡の全容をほぼ表しているもの推測される。和田鷹山や和田土屋橋に推定されるものがわずかに含まれるが、これらは石の見た目が違うことともに、器形にも違いが伺われる。これは製作者の違いを反映していることであろう。重要なことは諏訪側の石で石器製作をした者（あるいは集団）と和田側



第5図 温泉寺横遺跡出土石器 (S=1/1.5)



第6図 温泉寺横遺跡出土遺物 (S=1/2)

第1表 温泉寺横遺跡出土石器観察表

番号	時代	器種	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	黒曜石産地推定
5501	旧石器	尖頭器	05JY3 251層上層	38.1	23.2	7.6	5.7	諏訪層×台
5502	旧石器	尖頭器未成品	05JY3 252層	62.8	29.1	14.7	22.8	諏訪層×台
5503	旧石器	尖頭器未成品	05JY3 252層	44.6	22.2	9.4	6.5	諏訪層×台
5504	旧石器	使用痕のある剥片	05JY3 36%1	83.7	34.2	11.1	36	諏訪層×台
5505	旧石器	使用痕のある剥片	05JY3 363層	83.5	36.1	20.5	43.9	諏訪層×台
5506	旧石器	剥片	05JY3 363層	48.8	24	12.2	17.9	不可
5507	旧石器	尖頭器未成品	05JY立会6, 29①	44.4	23.7	8.4	8.3	不可
5508	旧石器	細長剥片	05JY立会6, 29①	51.6	24.5	11.7	12.1	諏訪層×台
5509	旧石器	尖頭器未成品	05JY立会6, 29②	37.2	26.9	15.2	12.2	諏訪層×台
55010	旧石器	剥片	05JY立会7, 10①	37.2	38.6	25.2	38	諏訪層×台

第2表 温泉寺横遺跡出土遺物観察表

番号	時代	器種	法長 (cm)	形状・調整	地成	残痕・色調	胎土・特徴	出土位置
600	縄文	土器	口径 底径 器高	内面 ナデ 外面 縄文	並	銅部小片 内外面 暗褐色～黒褐色	砂粒多量含む、胎土も織入含む	05JY3 253層上層
600	近世	磁器	---	内外面 施釉	良好	乳部小片 内外面 淡白	淡白色薬地に透明釉かけ、施釉厚く食い、近世前期	05JY3 106層
600	近世	磁器? 壺	---	内面 施釉 外面 施文、施釉	良好	底面小片 内外面 灰灰白	灰色薬地に呉茛、透明釉かけ、高台部は緑釉、近世前期か	05JY立会8, 20
600	近世	磁器	---	内面 施釉 外面 施文、施釉	良好	底面小片 外面 淡色、硝着	乾の目高台、見込みに五弁花文、肥前産	05JY3 36層土
600	近世	陶器	大目径	内外面 鉄黒掛け	良好	口縁部小片 内外面 黒～茶褐色釉	大目径の口縁小片、瀬戸青濃染。本葉1段附	05JY3 46層土
600	近世	陶器	鉢?	内面 施釉、刷毛目 外面 施釉	良好	体部小片 内面 淡褐色 外面 硝赤褐色	唐津系、内面は乳白色施釉後に刷毛かけ、外野口縁、近世前期	05JY3 252層
600	近世	灰釉陶器	---	内外面 施釉	良好	口縁部小片 内外面 暗灰白	単位の小さい段かけひだ、二次地成を受けたように表面無彩色、貫入	05JY立会26, 21
600	近世	灰釉陶器	---	内面 施釉 外面 施釉、高台部付	良好	底面小片 内外面 透明釉	厚みのある淡褐色薬地に透明釉かけ、見込みに表面施釉で着色しないよう塗り分け、瀬戸系濃染	05JY立会8, 6
600	近世	磁器?	---	内面 硝着 外面 硝	良好	体部小片 内面 硝着 外面 硝	ロクロ成形、底面は硝着にならない、外面は硝がなナデミガキする	05JY立会29, 14

の石で石器製作した者が、同時期にあったのか、時期を違えて同所にて活動したのかである。この点は、調査精度の問題と採集資料が多く、遺構に即した検討が行えない。同時期にみられるバラエティの範囲といえるのだろうか。本遺跡での活動は石器の総点数からいえばごくわずかなものであったと思われる、至近の上ノ平遺跡第4次調査で5,400点近くの石器・剥片が出土しているのとは明らかな違いがあるだろう。

## 8. 総括

過去 2 回の調査と同じ範囲内での調査であり、総合的には同じ様相であった。尖頭器の欠損・未成品およびその製作剥片が主な遺物である。新たな成果として、市道西側でソフトローム土より下層にある砂礫質ローム土より石器の出土があった。これは、今までの遺物が黒色土下位から漸移土・ローム土上位までの出土であったことは、層的に異なり、古いとみられる。遺物自体も尖頭器剥片とは異なり、別の器種製作を目的とした剥片と推測される。定形石器が出土していないが、ナイフ形石器を主に製作する頃と推測する。

近接する上ノ平遺跡では谷部で実施した第 4 次調査において、尖頭器製作期（第 I a・b 文化層）よりさらに深い層からナイフ形石器の製作跡が検出されている（第 II 文化層）。石器包含層は色調が異なるが砂礫層という共通した堆積であることから、温泉寺横遺跡においてもナイフ形石器の時期の堆積の可能性がある。これが、温泉寺横遺跡において形成されたものか、上ノ平遺跡や天神山の丘陵上から二次的に流入・土砂供給されたものかは今回の結果だけでは断定すべきではないだろう。

都合 3 回の調査によって、温泉寺横遺跡の全体像が把握できたこと、尖頭器を主として、その前後と考えられるナイフ形石器・細石器も断片的に出土したことが成果である。3つの器種はおよそ時代の新古によって分かれるが、併存期も存在することから、具体的な時間幅はなお慎重にならなければいけない。層位的な出土と伴の有無が重要である。

旧石器時代が注視されてきたが、今回、近世前半に比定される陶磁器が出土したことも重要な成果である。温泉寺は高島藩の二代藩主諏訪忠恒により、慶安 2 年（1649 年）に開創された寺院である。出土した陶磁器は時代的に寺院の創建期と重なることは示唆的である。寺院の伽藍図は江戸時代後期のものが知られるが、それによれば調査地には建物などの描写はない。想像をたくましくすれば、伽藍の外へ廃棄したものとと思われる。小片が数点出土したのみでは、これ以上の検討は難しい。

諏訪湖東岸の旧石器時代遺跡の密集は注目すべきものである。なかでも温泉寺背後の丘陵には時代と場所を異にしながらも継続的に分布する。その中で温泉寺横遺跡の内容が把握されたことは貴重な成果であろう。また、黒曜石は分析可能な全点 148 点を蛍光 X 線分析による産地推定を実施した。その成果は重要であるが、分析を実施したこと自体にも重要な意味があると考えられる。原産地近在の遺跡における分析と産地の傾向を知ることは、旧石器・縄文時代研究と地域史を知るうえでもより厚みを持たせるものである。その点では、周辺の遺跡においても分析を行うことで、より実相に近づくことができるであろう。

駐車場造成工事により調査地の様子はすでに一変した。不十分な調査と検討ではあるが、それでも得られた記録と成果を後世に引き継ぎ、次の調査・研究を待ちたい。

### <引用・参考文献>

- 池谷信之 2018 「温泉寺横遺跡出土石器の黒曜石原産地推定」『市内遺跡発掘調査報告書（平成 29 年度）』諏訪市教育委員会
- 杉原壮介 1973 「長野県上ノ平の尖頭器石器文化」明治大学文学部考古学研究室
- 諏訪市教育委員会 1996 「上ノ平Ⅱ - 長野県諏訪市上ノ平遺跡第 4 次調査概要報告書 - 』
- 諏訪市教育委員会 2013 「高島藩主廟所 - 長野県諏訪市高島藩主廟所第 1 次発掘調査報告書 - 』
- 諏訪市教育委員会 2018 「温泉寺横遺跡（第 2 次）」『市内遺跡発掘調査報告書（平成 29 年度）』

### Ⅲ 温泉寺横遺跡出土石器の黒曜石原産地推定 2

明治大学黒曜石研究センター 池谷 信之

#### 1. 分析対象資料

温泉寺横遺跡は現在の諏訪湖岸から 600mほど東方の丘陵上にあり、この丘陵をさらに北東方向にたどると霧ヶ峰の黒曜石原産地に達する。諏訪湖と本遺跡との比高差は 30m～40mである。信州地域の尖頭器石器群の標式的遺跡となっている上ノ平遺跡は、この遺跡の南東側に隣接している。

今回の分析対象は、平成 30 年度に実施された試掘調査等によって得られた尖頭器・尖頭器未製品およびその製作にかかわる剥片等の石器群であり、その他の時期のものをほとんど含まない。これらの資料から分析可能なサイズの黒曜石全点を抽出して産地推定した。

#### 2. 分析方法

##### a. 原産地推定法

蛍光 X 線分析は特定の物質に X 線を照射したとき、その物質に固有の X 線が発生する原理を利用した分析方法である。原子核の周囲には内側から順に K 殻・L 殻・M 殻……と呼ばれる軌道（電子殻）があり、外殻側の電子は内殻側に比べより高いエネルギーを有している。一次 X 線が原子に照射されると、内殻側の電子の一部がはじき飛ばされ、空席となった場所（空孔）に外殻側の電子が遷移するが、その際に一定のエネルギーが放出される。このエネルギーが二次 X 線（蛍光 X 線）である。軌道間のエネルギー差は原子によって固有であるため、発生した蛍光 X 線も元素ごとに固有のエネルギー（波長）を有することになる。試料に含まれる元素 A の濃度が高ければ、より多くの蛍光 X 線 a が生じるため、試料中の元素 A の濃度を求めることが可能となる。

こうした原理を利用した方法が蛍光 X 線分析であり、その装置には波長分散型とエネルギー分散型がある。後者は前者に比べ分解能では劣るものの、完全な非破壊分析であり、黒曜石の測定に要する時間は数分程度と短いなどの利点がある。今回の産地推定に用いた分析装置は、筆者の自宅に設置した SII ナノテクノロジー社製エネルギー分散型蛍光 X 線装置 SEA-2110 である。測定条件は、電圧：50kV、電流：自動設定、照射径：10mm、測定時間：300sec、雰囲気：真空、とした。

計測された元素は以下の 11 元素である。アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)。得られた元素の強度を用いて、以下の 2 つの方法によって産地を決定する。

##### 【判別図法（図による産地推定）】

測定の結果得られる各元素の蛍光 X 線強度から以下の 4 つの指標を計算する。

指標 1  $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標 2  $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$

指標 3  $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標 4  $\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

指標 1・2 と指標 3・4 をそれぞれ X 軸と Y 軸とした 2 つの判別図（図 1 左・図 1 右）を作成し、原産地黒曜石の散布域とプロットされた遺跡出土黒曜石の位置によって産地を決定する。

### 【判別分析(多変量解析による産地推定)】

判別図法による産地推定結果を検証するために、多変量解析の一手法である判別分析を行っている。判別分析では遺跡出土の試料1点ごとに、各原産地との距離(マハラノビス距離と呼ばれる)を計算し、試料との距離がもっとも小さい産地がその試料の産地の第1の候補となる。またそれぞれの産地とのマハラノビス距離から、試料が各原産地に帰属する確率も計算され、その数値が1(100%)に近いほど推定結果の信頼性は高くなる。

表2では紙数の関係から推定候補の第2位までのマハラノビス距離と確率を示した。判別分析の結果と判別図法を総合して最終的な推定産地を決定している。

#### b. 原産地黒曜石の測定

推定の基準試料となる原産地黒曜石については、以下の産地の原石を収集し測定した。

高原山エリア：桜沢

和田(WD)エリア：芙蓉ライト・丁子御領・鷹山・小深沢・東餅屋土屋橋・土屋橋北(3地点)・土屋橋東(2地点)・土屋橋西・土屋橋南・鷲ヶ峰・ウツギ沢・古峠・和田峠西

和田(WO)エリア：ブドウ沢・牧ヶ沢下・牧ヶ沢上・高松沢・本沢下

諏訪エリア：星ヶ台・星ヶ塔・水月霊園・東俣・八島

蓼科エリア：麦草峠・麦草峠東・渋ノ湯・冷山・双子池

浅間エリア：大窪沢

箱根エリア：芦ノ湯・畑宿・黒岩橋・甘酒橋・鍛冶屋・上多賀

天城エリア：柏峠

神津島エリア：恩馳島・長浜・沢尻・砂糠崎

#### c. 試料の前処理と測定

原産地試料については、打ち割って平坦な新鮮面を測定した。石器試料については、注記を避けてなるべく平坦な部分を対象とし、メラミンフォームで汚れを取り除いて測定した。なお判別図で各判別群の分布範囲外にプロットされたものについては、洗浄をやり直し再度計測した。この作業を3～5回繰り返してもなお判別群外に留まったものについては、「不可」とした。

### 3. 分析結果

産地推定のための判別図を図1に、分析結果の集計を表1に、資料1点ごとの分析結果を表2に示した。分析可能であった135点のうち、諏訪星ヶ台産が129点(95.6%)と圧倒的多数を占めた。前回調査資料を対象とした産地推定においても、諏訪星ヶ台産が370点中353点(95.4%)と、ほぼ同様な割合を占めていた。分析対象には尖頭器だけではなく、その未製品やポイントフレイクも多く含まれており、この遺跡で諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とした尖頭器製作が集中的に行われていたことを示している。またフレイクの中には礫面あるいは節理面が残されたものが一定量含まれており、本遺跡における石器製作にはその初期工程が含まれていると考えられる。

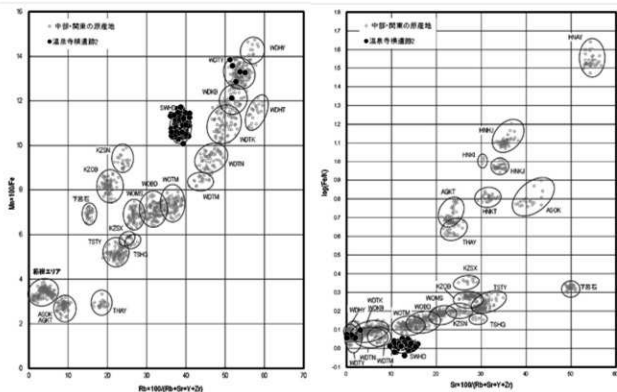


図 1 温泉寺横遺跡黒曜石原産地判別図

表 1 原産地推定結果集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	フジョーライト	WDHY	0	0.0
	嵐山	WDTY	5	3.7
	小深沢	WDKB	1	0.7
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	吉峰	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	筑ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	壺ヶ谷	SMHD	129	89.6
伊豆	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
浅間	大深沢	ASOK	0	0.0
天城	柏峰	AGKT	0	0.0
	笠宿	HNKJ	0	0.0
箱根	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	嵐岩橋	HNKJ	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	忍馳島	KZOB	0	0.0
	砂糠地	KZSN	0	0.0
	砂糠地x	KZSX	0	0.0
高原山	甘露沢	THAY	0	0.0
	合計		135	100.0
	不可		13	
	非黒曜石		0	
	総計		148	

表2 原産地推定結果一覧表

分析№	通称	素材	推定産地	判別 判別群	判別分析		Fe/S	Mn/Fe	Sr/S	Fe/K				
					候補1	距離1					候補2	距離2		
温泉寺様2-1	05JY 261層互層	尖頭器	SHD	SHD	SHD	4.00	1.00	WDX	82.82	0.00	39.49	11.18	11.01	0.95
温泉寺様2-2	05JY 262層	尖頭器未成品	SHD	SHD	SHD	0.44	1.00	WDX	76.10	0.00	38.74	10.77	12.24	1.01
温泉寺様2-3	05JY 262層	尖頭器未成品	SHD	SHD	SHD	2.48	1.00	WDX	77.08	0.00	38.40	10.80	11.77	1.06
温泉寺様2-4	05JY 306A1	使用済のある割片	SHD	SHD	SHD	3.57	1.00	WDX	84.27	0.00	37.68	10.58	14.02	1.10
温泉寺様2-5	05JY 363層	使用済のある割片	SHD	SHD	SHD	5.21	1.00	WDX	49.66	0.00	39.96	10.37	11.22	1.05
温泉寺様2-6	05JY 363層	割片	不可	不可	WDX	25.50	0.83	SHD	32.69	0.15	39.29	9.24	11.17	1.19
温泉寺様2-7	05JY立金2018.6.29J1	尖頭器未成品	不可	不可	SHD	1.26	1.00	WDX	67.82	0.00	39.25	10.61	12.75	0.70
温泉寺様2-8	05JY立金2018.6.29J1	短長割片	SHD	SHD	SHD	11.88	1.00	WDX	70.64	0.00	39.49	10.52	11.13	1.05
温泉寺様2-9	05JY立金2018.6.29J2	尖頭器未成品	SHD	SHD	SHD	1.29	1.00	WDX	70.20	0.00	38.28	10.49	12.50	1.07
温泉寺様2-10	05JY立金2018.7.10J1	割片	SHD	SHD	SHD	3.15	1.00	WDX	73.38	0.00	40.04	10.97	11.58	1.01
温泉寺様2-11	05JY 161-2層	割片	SHD	SHD	SHD	17.10	1.00	WDX	111.41	0.00	39.33	11.03	13.65	1.10
温泉寺様2-12	05JY 161-2層	割片	SHD	SHD	SHD	22.12	1.00	WDX	127.86	0.00	38.28	10.73	15.87	1.06
温泉寺様2-13	05JY 161-2層	割片	不可	不可	SHD	22.46	1.00	WDX	92.27	0.00	41.38	11.63	13.90	1.02
温泉寺様2-14	05JY 161-2層	割片	SHD	SHD	SHD	9.27	1.00	WDX	82.81	0.00	40.60	11.06	13.99	1.03
温泉寺様2-15	05JY 161-2層	割片	SHD	SHD	SHD	2.14	1.00	WDX	92.89	0.00	37.42	10.75	13.66	1.04
温泉寺様2-16	05JY 161-2層	磨石	不可	不可	WDX	23.26	1.00	WDX	39.26	0.00	53.31	10.19	0.68	1.52
温泉寺様2-17	05JY 164層	割片	SHD	SHD	SHD	8.41	1.00	WDX	68.41	0.00	38.02	10.48	10.68	0.96
温泉寺様2-18	05JY 164層	割片	SHD	SHD	SHD	18.53	1.00	WDX	94.90	0.00	41.04	11.25	14.50	1.03
温泉寺様2-19	05JY 164層	割片	SHD	SHD	SHD	3.41	1.00	WDX	76.79	0.00	38.70	10.82	12.43	1.02
温泉寺様2-20	05JY 164層	割片	SHD	WDX	WDX	1.42	1.00	WDX	21.06	0.00	53.78	13.29	0.00	1.15
温泉寺様2-21	05JY 164層	割片	SHD	SHD	SHD	11.71	1.00	WDX	112.55	0.00	37.87	11.65	12.24	1.04
温泉寺様2-22	05JY 164層	割片	不可	不可	SHD	1.18	1.00	WDX	82.89	0.00	39.02	11.00	12.42	0.81
温泉寺様2-23	05JY 166層	割片	SHD	SHD	SHD	2.86	1.00	WDX	85.74	0.00	37.21	10.58	13.04	1.04
温泉寺様2-24	05JY 166層	割片	SHD	SHD	SHD	37.28	1.00	WDX	138.94	0.00	40.37	11.18	15.49	1.02
温泉寺様2-25	05JY 166層	割片	SHD	SHD	SHD	5.20	1.00	WDX	47.35	0.00	40.27	10.53	10.70	1.09
温泉寺様2-26	05JY 168層	割片	SHD	SHD	SHD	13.79	1.00	WDX	71.04	0.00	38.03	10.54	9.80	1.04
温泉寺様2-27	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	10.19	1.00	WDX	140.85	0.00	36.15	11.32	14.76	0.99
温泉寺様2-28	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	6.96	1.00	WDX	96.03	0.00	39.84	11.16	13.25	1.03
温泉寺様2-29	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	6.65	1.00	WDX	78.23	0.00	40.74	11.06	12.88	1.06
温泉寺様2-30	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	2.49	1.00	WDX	66.58	0.00	40.00	10.69	12.73	1.06
温泉寺様2-31	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	8.51	1.00	WDX	102.92	0.00	39.13	11.55	12.66	1.04
温泉寺様2-32	05JY 261層互層	割片	SHD	SHD	SHD	6.67	1.00	WDX	110.82	0.00	38.46	11.08	15.12	1.06
温泉寺様2-33	05JY 262層	割片	SHD	SHD	SHD	5.74	1.00	WDX	103.89	0.00	36.28	10.76	12.94	1.07
温泉寺様2-34	05JY 262層	割片	SHD	SHD	SHD	2.82	1.00	WDX	98.84	0.00	38.30	11.13	13.34	1.05
温泉寺様2-35	05JY 262層	割片	SHD	SHD	SHD	7.27	1.00	WDX	73.78	0.00	40.80	11.24	12.78	1.06
温泉寺様2-36	05JY 263層上位	割片	SHD	SHD	SHD	0.61	1.00	WDX	75.18	0.00	38.72	10.66	12.79	1.03
温泉寺様2-37	05JY 263層上位	割片	SHD	SHD	SHD	19.29	1.00	WDX	107.42	0.00	39.07	11.63	14.88	1.04
温泉寺様2-38	05JY 263層上位	割片	SHD	SHD	SHD	3.75	1.00	WDX	83.38	0.00	39.50	11.18	12.94	0.92
温泉寺様2-39	05JY 263層上位	割片	SHD	SHD	SHD	8.10	1.00	WDX	118.14	0.00	38.03	11.50	12.90	0.92
温泉寺様2-40	05JY 263層	割片	SHD	SHD	SHD	1.12	1.00	WDX	83.69	0.00	39.14	10.95	13.15	1.04
温泉寺様2-41	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	1.49	1.00	WDX	76.14	0.00	39.57	11.10	12.70	1.03
温泉寺様2-42	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	10.09	1.00	WDX	71.44	0.00	39.64	10.78	12.61	1.05
温泉寺様2-43	05JY 264層	割片	不可	不可	SHD	3.67	1.00	WDX	75.54	0.00	39.19	10.98	10.83	0.67
温泉寺様2-44	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	5.46	1.00	WDX	115.92	0.00	37.60	11.08	14.24	1.05
温泉寺様2-45	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	4.26	1.00	WDX	83.49	0.00	37.22	10.53	12.89	1.03
温泉寺様2-46	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	35.46	1.00	WDX	138.49	0.00	39.18	11.14	13.51	1.08
温泉寺様2-47	05JY 264層	割片	SHD	SHD	SHD	3.96	1.00	WDX	112.63	0.00	37.39	10.98	14.94	1.05
温泉寺様2-48	05JY 363層	割片	不可	不可	SHD	5.83	1.00	WDX	84.46	0.00	38.74	11.08	10.71	0.69
温泉寺様2-49	05JY 363層	割片	SHD	SHD	SHD	3.89	1.00	WDX	108.05	0.00	37.16	10.98	13.16	1.07
温泉寺様2-50	05JY 363層	割片	SHD	SHD	SHD	5.15	1.00	WDX	98.93	0.00	38.60	10.85	14.98	1.03
温泉寺様2-51	05JY 363層	割片	SHD	SHD	SHD	3.11	1.00	WDX	103.43	0.00	37.50	11.00	13.73	1.04
温泉寺様2-52	05JY 363層	割片	SHD	SHD	SHD	6.23	1.00	WDX	72.40	0.00	40.48	11.37	11.66	1.07
温泉寺様2-53	05JY 363層	割片	SHD	SHD	SHD	1.18	1.00	WDX	83.87	0.00	38.95	11.04	12.11	1.05
温泉寺様2-54	05JY 364層	石核？尖頭器未成品？	SHD	SHD	SHD	1.85	1.00	WDX	75.04	0.00	38.06	10.43	13.59	1.05
温泉寺様2-55	05JY 364層	割片	SHD	SHD	SHD	2.86	1.00	WDX	77.53	0.00	40.10	10.98	12.74	1.03
温泉寺様2-56	05JY 364層	割片	SHD	SHD	SHD	4.48	1.00	WDX	76.99	0.00	38.65	10.49	14.28	1.02
温泉寺様2-57	05JY 364層	割片	不可	不可	SHD	3.33	1.00	WDX	63.01	0.00	39.13	10.56	11.26	0.74
温泉寺様2-58	05JY 364層	割片	SHD	SHD	SHD	4.20	1.00	WDX	92.13	0.00	38.31	11.08	12.20	1.04
温泉寺様2-59	05JY 364層	割片	SHD	SHD	SHD	5.03	1.00	WDX	89.43	0.00	38.85	10.80	13.30	1.09
温泉寺様2-60	05JY 364層	割片	SHD	SHD	SHD	4.33	1.00	WDX	111.08	0.00	37.18	11.11	12.84	1.09
温泉寺様2-61	05JY 461-2層	尖頭器未成品？	SHD	SHD	SHD	6.16	1.00	WDX	97.03	0.00	38.78	11.47	12.35	1.09
温泉寺様2-62	05JY 461-2層	割片	SHD	SHD	SHD	5.93	1.00	WDX	104.16	0.00	38.02	11.26	12.15	1.03
温泉寺様2-63	05JY 461-2層	割片	SHD	SHD	SHD	7.80	1.00	WDX	86.35	0.00	37.91	11.11	11.08	1.02
温泉寺様2-64	05JY 461-2層	割片	SHD	SHD	SHD	4.22	1.00	WDX	58.33	0.00	40.88	10.89	10.81	1.06
温泉寺様2-65	05JY 463層	割片	SHD	SHD	SHD	4.18	1.00	WDX	90.82	0.00	39.32	11.25	13.31	1.05



分析地	道幅	標榜	推定産地	判別困難 判別群	判別分析						Rd	Mn/Fe	Sr	Fe/K
					規矩1	距離1	確率1	規矩2	距離2	確率2				
温泉寺橋2-66	05/JY 403番	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	5.83	1.00	WdTN	76.14	0.00	40.52	11.04	11.69	1.05
温泉寺橋2-67	05/JY 561番	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.43	1.00	WdTN	78.44	0.00	38.78	10.97	10.82	1.07
温泉寺橋2-68	05/JY 504番	割片	SMD	SMD	SMD	5.26	1.00	WdTN	69.78	0.00	39.64	10.62	12.22	1.08
温泉寺橋2-69	05/JY 564番	割片	SMD	SMD	SMD	8.55	1.00	WdTN	68.59	0.00	38.04	10.29	11.38	1.09
温泉寺橋2-70	05/JY 505a1	割片	WKS	WKS	WKS	0.09	1.00	WdTY	15.64	0.00	51.68	12.12	3.06	1.25
温泉寺橋2-71	05/JY 505a2	割片	SMD	SMD	SMD	5.99	1.00	WdTK	96.76	0.00	39.46	11.34	12.93	1.06
温泉寺橋2-72	05/JY 表標	尖頭器未成品	SMD	SMD	SMD	9.21	1.00	WdTN	109.80	0.00	37.31	11.22	11.20	1.04
温泉寺橋2-73	05/JY 表標	割片	SMD	SMD	SMD	10.63	1.00	WdTN	102.04	0.00	39.64	11.13	13.20	1.02
温泉寺橋2-74	05/JY 表標	尖頭器未成品	不可	不可	SMD	4.53	1.00	WdTK	87.20	0.00	39.89	11.22	12.53	0.72
温泉寺橋2-75	05/JY 表標	割片	SMD	SMD	SMD	4.27	1.00	WdTN	95.97	0.00	36.72	10.60	13.91	1.06
温泉寺橋2-76	05/JY 表標	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	3.42	1.00	WdTN	56.33	0.00	39.99	10.70	10.99	1.04
温泉寺橋2-77	05/JY立会2018. 6. 21	割片	SMD	SMD	SMD	4.18	1.00	WdTN	85.32	0.00	39.12	11.03	11.51	1.04
温泉寺橋2-78	05/JY立会2018. 6. 21	割片	SMD	SMD	SMD	7.71	1.00	WdTN	92.64	0.00	36.61	10.44	13.92	1.05
温泉寺橋2-79	05/JY立会2018. 6. 26	尖頭器未成品	SMD	SMD	SMD	6.42	1.00	WdTN	99.73	0.00	39.49	11.14	13.73	1.08
温泉寺橋2-80	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	6.07	1.00	WdTN	104.24	0.00	37.25	11.10	11.84	1.07
温泉寺橋2-81	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	7.97	1.00	WdTK	72.90	0.00	40.39	11.31	10.18	1.03
温泉寺橋2-82	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.70	1.00	WdTK	64.06	0.00	40.69	11.05	10.43	1.07
温泉寺橋2-83	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片	SMD	SMD	SMD	9.39	1.00	WdTN	96.23	0.00	37.23	10.39	14.05	1.06
温泉寺橋2-84	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片	WdTY	WdTY	WdTY	5.76	1.00	WdHY	24.70	0.00	51.86	13.57	1.98	1.14
温泉寺橋2-85	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片	SMD	SMD	SMD	18.47	1.00	WdTN	60.26	0.00	40.67	10.42	10.57	1.10
温泉寺橋2-86	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片	SMD	SMD	SMD	10.93	1.00	WdTN	91.44	0.00	40.33	11.01	13.31	1.02
温泉寺橋2-87	05/JY立会2018. 6. 29(1)	割片	SMD	SMD	SMD	10.00	1.00	WdTK	105.71	0.00	39.10	11.42	11.53	1.01
温泉寺橋2-88	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片	SMD	SMD	SMD	3.41	1.00	WdTN	80.23	0.00	39.54	10.78	13.89	1.06
温泉寺橋2-89	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	6.56	1.00	WdTK	103.61	0.00	38.75	11.43	12.12	1.05
温泉寺橋2-90	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	11.74	1.00	WdTN	106.18	0.00	39.17	11.31	11.55	1.05
温泉寺橋2-91	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片 (PF)	不可	不可	SMD	12.13	1.00	WdTN	137.49	0.00	37.28	11.20	15.45	0.79
温泉寺橋2-92	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.04	1.00	WdTK	56.88	0.00	39.82	10.37	12.93	1.07
温泉寺橋2-93	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	8.24	1.00	WdTN	87.99	0.00	39.25	10.78	14.66	1.05
温泉寺橋2-94	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片	WdTY	WdTY	WdTY	2.20	0.99	WdKB	9.19	0.01	52.76	12.65	1.06	1.18
温泉寺橋2-95	05/JY立会2018. 6. 29(2)	割片	SMD	SMD	SMD	5.95	1.00	WdTN	89.82	0.00	36.47	10.39	12.94	1.06
温泉寺橋2-96	05/JY立会2018. 6. 29(4) 2点あり	巨石の破片	WdTY	WdTY	WdTY	4.10	1.00	WdHY	19.49	0.00	55.06	13.26	0.05	1.19
温泉寺橋2-97	05/JY立会2018. 7. 2	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	8.39	1.00	WdTK	76.56	0.00	39.79	11.43	10.78	1.02
温泉寺橋2-98	05/JY立会2018. 7. 2	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	3.52	1.00	WdTK	100.59	0.00	38.43	11.16	13.82	1.07
温泉寺橋2-99	05/JY立会2018. 7. 2	割片	SMD	SMD	SMD	2.16	1.00	WdTK	96.22	0.00	38.28	11.09	12.43	1.04
温泉寺橋2-100	05/JY立会2018. 7. 2	割片	SMD	SMD	SMD	0.50	1.00	WdTN	80.41	0.00	39.13	10.92	12.74	1.06
温泉寺橋2-101	05/JY立会2018. 7. 10(1)	石核?	SMD	SMD	SMD	1.60	1.00	WdTN	68.96	0.00	39.49	10.87	11.52	1.07
温泉寺橋2-102	05/JY立会2018. 7. 10(2)	尖頭器未成品?	SMD	SMD	SMD	18.57	1.00	WdTK	133.60	0.00	36.22	11.40	13.45	1.04
温泉寺橋2-103	05/JY立会2018. 7. 10(2)	石核?	SMD	SMD	SMD	13.44	1.00	WdTN	78.76	0.00	37.92	10.89	9.64	1.03
温泉寺橋2-104	05/JY立会2018. 7. 10(3)	割片	WdTY	WdTY	WdTY	16.77	1.00	WdHY	35.27	0.00	51.23	13.65	0.08	1.14
温泉寺橋2-105	05/JY立会2018. 7. 10(3)	割片	SMD	SMD	SMD	1.84	1.00	WdTN	96.04	0.00	37.52	10.70	14.36	1.01
温泉寺橋2-106	05/JY立会2018. 7. 11	二次加工割片	SMD	SMD	SMD	4.42	1.00	WdTK	108.81	0.00	37.33	11.17	12.68	1.05
温泉寺橋2-107	05/JY立会2018. 7. 11	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	3.50	1.00	WdTK	100.96	0.00	38.19	11.24	12.87	1.04
温泉寺橋2-108	05/JY立会2018. 7. 11	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	1.18	1.00	WdTN	97.83	0.00	37.43	10.82	13.77	1.04
温泉寺橋2-109	05/JY立会2018. 7. 11	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	6.66	1.00	WdTK	96.72	0.00	38.47	11.31	11.09	1.03
温泉寺橋2-110	05/JY立会2018. 7. 11	割片	SMD	SMD	SMD	8.60	1.00	WdTN	95.79	0.00	36.35	10.44	13.92	1.03
温泉寺橋2-111	05/JY立会2018. 7. 11	割片	SMD	SMD	SMD	2.92	1.00	WdTN	79.44	0.00	40.07	11.03	12.65	1.07
温泉寺橋2-112	05/JY立会2018. 7. 17(1)	尖頭器未成品	SMD	SMD	SMD	0.76	1.00	WdTN	69.86	0.00	38.75	10.58	12.84	1.07
温泉寺橋2-113	05/JY立会2018. 7. 17(1)	割片	SMD	SMD	SMD	3.76	1.00	WdTK	90.02	0.00	38.98	10.99	12.50	1.01
温泉寺橋2-114	05/JY立会2018. 7. 17(1)	割片	SMD	SMD	SMD	4.69	1.00	WdTN	65.66	0.00	39.28	10.37	13.84	1.12
温泉寺橋2-115	05/JY立会2018. 7. 17(2)	割片	SMD	SMD	SMD	4.60	1.00	WdTN	74.87	0.00	37.99	10.56	12.41	1.13
温泉寺橋2-116	05/JY立会2018. 7. 20	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	1.76	1.00	WdTN	74.96	0.00	38.37	10.70	11.71	1.03
温泉寺橋2-117	05/JY立会2018. 7. 20	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.54	1.00	WdTK	81.91	0.00	39.09	10.99	12.67	1.06
温泉寺橋2-118	05/JY立会2018. 7. 20	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	3.23	1.00	WdTK	52.97	0.00	39.71	10.39	12.18	1.05
温泉寺橋2-119	05/JY立会2018. 7. 20	割片	不可	不可	SMD	20.22	1.00	WdTK	92.57	0.00	41.05	11.73	11.22	1.05
温泉寺橋2-120	05/JY立会2018. 7. 20	割片	SMD	SMD	SMD	8.66	1.00	WdTK	129.47	0.00	36.57	11.33	13.74	0.96
温泉寺橋2-121	05/JY立会2018. 7. 20	割片	SMD	SMD	SMD	2.00	1.00	WdTK	82.08	0.00	37.39	10.49	13.10	1.02
温泉寺橋2-122	05/JY立会2018. 7. 23	割片	SMD	SMD	SMD	15.54	1.00	WdTN	96.96	0.00	36.32	10.60	10.75	1.07
温泉寺橋2-123	05/JY立会2018. 7. 30(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	7.16	1.00	WdTK	53.26	0.00	39.32	10.88	13.13	1.02
温泉寺橋2-124	05/JY立会2018. 7. 30(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	9.71	1.00	WdTK	135.68	0.00	36.09	11.32	13.35	1.05
温泉寺橋2-125	05/JY立会2018. 7. 30(1)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.49	1.00	WdTN	57.16	0.00	39.90	10.42	12.23	1.04
温泉寺橋2-126	05/JY立会2018. 7. 30(2)	石核	SMD	SMD	SMD	0.72	1.00	WdTK	75.92	0.00	39.23	10.90	12.02	1.08
温泉寺橋2-127	05/JY立会2018. 7. 30(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	19.99	1.00	WdTK	100.95	0.00	39.95	11.46	15.30	1.02
温泉寺橋2-128	05/JY立会2018. 7. 30(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	4.21	1.00	WdTK	108.26	0.00	38.45	11.16	14.22	1.04
温泉寺橋2-129	05/JY立会2018. 7. 30(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	19.94	1.00	WdTK	102.69	0.00	40.91	11.26	12.69	1.07
温泉寺橋2-130	05/JY立会2018. 7. 30(2)	割片 (PF)	SMD	SMD	SMD	12.99	1.00	WdTK	83.30	0.00	40.54	10.89	12.36	1.06

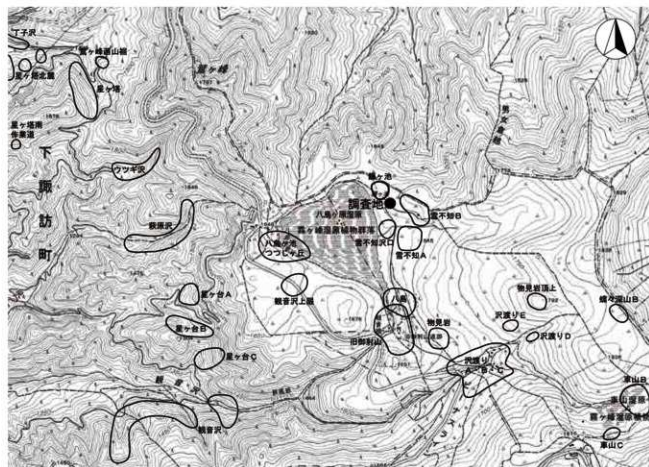
分析No.	通稱	器種	推定産地	特別同 社別群	割別分析				Rb%	Mn/Fe	Sr%	Fe/K		
					焼結1	研磨1	燒率1	焼結2					研磨2	燒率2
温泉寺様2-131	05.11立会2018.7.30②	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	3.52	1.00	ND78	67.74	0.00	39.53	10.50	13.62	1.12
温泉寺様2-132	05.11立会2018.7.30②	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	2.67	1.00	ND78	75.29	0.00	39.12	10.60	13.92	1.06
温泉寺様2-133	05.11立会2018.7.30②	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	8.60	1.00	ND78	104.40	0.00	39.41	11.15	13.75	1.03
温泉寺様2-134	05.11立会2018.8.6②	製片	SWID	SWID	SWID	5.85	1.00	ND78	80.96	0.00	39.97	10.93	12.41	1.07
温泉寺様2-135	05.11立会2018.8.20	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	6.12	1.00	ND78	66.52	0.00	39.94	10.51	13.46	1.05
温泉寺様2-136	05.11立会2018.8.20	製片	SWID	SWID	SWID	19.84	1.00	ND78	101.03	0.00	40.94	11.44	12.91	1.08
温泉寺様2-137	05.11立会2018.8.20	製片	SWID	SWID	SWID	22.20	1.00	ND78	129.14	0.00	38.85	11.72	11.68	1.07
温泉寺様2-138	05.11立会2018.9.3	製片	SWID	SWID	SWID	8.41	1.00	ND78	123.30	0.00	37.00	11.36	12.35	1.03
温泉寺様2-139	05.11立会2018.9.3	製片	SWID	SWID	SWID	6.21	1.00	ND78	77.84	0.00	37.81	10.64	11.69	1.06
温泉寺様2-140	05.11立会2018.9.5①	製片	SWID	SWID	SWID	7.31	1.00	ND78	94.64	0.00	37.63	10.62	13.03	1.05
温泉寺様2-141	05.11立会2018.9.5①	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	12.36	1.00	ND78	113.99	0.00	38.67	11.71	12.46	1.02
温泉寺様2-142	05.11立会2018.9.5①	製片 (PF)	不可	不可	SWID	1.69	1.00	ND78	76.60	0.00	38.97	10.84	12.50	0.83
温泉寺様2-143	05.11立会2018.9.5①	製片	SWID	SWID	SWID	7.29	1.00	ND78	110.02	0.00	37.96	11.47	12.25	1.02
温泉寺様2-144	05.11立会2018.9.5①	製片	SWID	SWID	SWID	2.71	1.00	ND78	83.21	0.00	38.40	10.56	14.12	1.04
温泉寺様2-145	05.11立会2018.9.5①	製片	SWID	SWID	SWID	3.43	1.00	ND78	83.62	0.00	39.46	11.27	12.09	1.03
温泉寺様2-146	05.11立会2018.9.5②	製片	SWID	SWID	SWID	13.73	1.00	ND78	90.56	0.00	39.40	11.21	14.35	1.07
温泉寺様2-147	05.11立会2018.9.14	製片	不可	不可	SWID	10.30	1.00	ND78	60.34	0.00	38.84	10.07	13.63	0.71
温泉寺様2-148	05.11立会2018.9.14	製片 (PF)	SWID	SWID	SWID	0.79	1.00	ND78	65.24	0.00	39.08	10.60	12.13	1.03

## IV 鎌ヶ池遺跡隣接地（第1次）

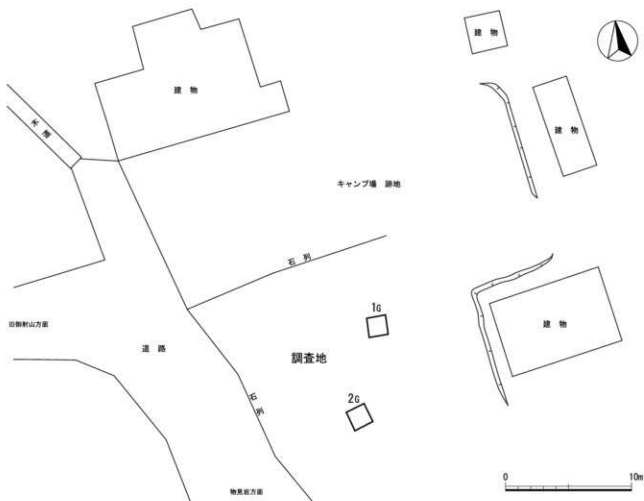
- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. 所在地 諏訪市上諏訪 7718-12         | 4. 調査目的 公衆トイレ建設に係る有無確認 |
| 2. 調査期間 平成 30 年 9 月 11 日～13 日 | 5. 検出遺構 なし             |
| 3. 調査面積 4.5 m <sup>2</sup>    | 6. 出土遺物 なし             |

### 7. 遺跡概要及び調査概要

霧ヶ峰高原の北、諏訪市と下諏訪町・長和町の行政境界にあるのが八島ヶ原湿原である（第 7 図）。湿原は車山・踊場の湿原とともに国天然記念物「霧ヶ峰湿原植物群落」に指定されている。湿原西側の下諏訪町には星ヶ塔や星ヶ台などの黒曜石原産地があり、北から東にかけては和田峠や星糞峠の黒曜石原産地が立地する。黒曜石原産地に近いため、湿原周囲には旧石器・縄文時代の遺跡が多数存在する（諏訪市博物館 2002）。八島遺跡は尖頭器を多く出土し（戸沢 1958）、雪不知遺跡ではナイフ形石器と尖頭器が出土している（藤森・中村 1964）。物見岩遺跡はナイフ形石器から尖頭器まで多様な器種を出土している（金井・石井 1964、金井 1966）。今回調査にいたった鎌ヶ池遺跡ではナイフ形石器が出土している（吉川 1959）。いずれの調査も昭和 30 年代までに実施されたものであるが、現在では草原と樹木が広がる景観もあって調査・採集地点を正確に特定するだけの記録がない。そのような要因もあり、また、堆積土の把握をする意味でも調査を行うことは有益であると考えた。



第 7 図 鎌ヶ池遺跡隣接地位置図 (S=1/30,000)



第8図 調査地全体図 (S=1/300)

調査に至る経緯についてであるが、諏訪市経済部観光課では、八鳥ヶ原湿原の近くある汲み取り式公衆トイレの建て替えを計画し、現在地より北西へ250mの、旧キャンプ場の一角に建設しようと各種の調整を行っている。同地は八鳥ヶ原湿原の周回道路（遊歩道）に面しており利便性が良い。そのような理由により文化財に関する有無について照会があり、遺構等の有無が不明であることから計画の早い段階で有無確認を行い、設計などに反映可能とするよう試掘調査を実施することとなった。

調査は建設場所の候補として挙げられた旧キャンプ場の一角である（第8図）。道路より一段高く、平らに造成されている様子がおおよそ分かる状況であった。1.5m×1.5mの試掘坑を2箇所設け、人力により掘り下げを行った。その結果、表土下10cmは碎石により整地されており、その下については、1グリッドではきれいな自然堆積の黒色土、漸移土を経てローム土へ変化した（第9図）。約60cmで完全にローム土に達する。2グリッドでは表土下にも造成土があり、乾電池やプラスチック片などが含まれた（2層）。大きく一つの層としたが、実際には数cm～数十cmの土が互層になっている。3層は同様の造成土であるが、炭化物を主に堆積していたため分けた。燃焼させた炭化物を廃棄したような堆積であった。それらの造成土下には自然堆積の黒色土が検出され、下にローム土も確認された。

造成土は周辺地形から盛土ではなく、ある程度の切土および一度掘り下げた土を再び埋め戻した状態と推測される。2箇所のグリッドとも遺構・遺物は検出されず、当該地に遺跡は分布していないことが確認された。



1 グリッド南壁		2 グリッド北壁		断面		遺人類・特徴など	
層	色調	土質	粘性	しまり			
1	黒灰	細かい・細かい	なし	なし	灰土、砂ら散在		
2	黒・黄褐色	細かい・細かい	あり	あり	造成土(黄土または硬め土)、乱層で石やロームブロック散在。砂石や骨コンを含む		
3	黒	細かい	なし	なし	黄褐色の石灰材土層、西く崩れだ中に散在された砂子、土層上二層あり		
4	黒	細かい	あり	ややあり	黒色土、褐色粒少し含む、自然堆積		
5	黒灰	細かい	あり	ややあり	ローム土層砂土、黒土と粘灰色土、褐色粒4層より多く含む		
6	黄褐色	細かい・細かい	あり	ややあり	ローム土上部堆積、細かい黄褐色粒多く含む、多孔質を含む		
7	黄褐色	細かい・細かい	あり	ややあり	サンドビッド、ローム土、動植物体達しない硬さ、大小の石含む		

第9図 調査グリッド断面図 (S=1/40)

## 8. 総括

試掘調査の結果、遺構・遺物とも確認されず、当該地に遺跡の分布がないことを確認できたことは重要である。当該地は戦後、キャンプ場と牧場が設けられ、現在もその名残をとどめている。トイレ建設の計画範囲は切土により平らな面を造成していることは、目視によりおおそ確認されていた。今回の調査で確認された自然堆積土の様子から、同地に限っては人類活動はなかったとみられる。ただし、調査はごくわずかであり、周囲に遺跡が多数あることは変わらない。

往時に発掘・採集された遺物から遺跡が多く所在するが、今日的な視点ではその所在は不明なところが多い。しかしながら、国天然記念物や国定公園に指定されている現在では、昔のような発掘調査や遺物採集については行うことは様々な面で難しいであろう。一方で、黒曜石原産地に近在した湿原一帯の遺跡分布や実態の把握は、今日的に改めて重要な事項でもあるだろう。今後機会を逸することなく情報把握に努めたい。

## <引用・参考文献>

- 諏訪市博物館 2002『茶臼山遺跡発掘 50 周年記念 諏訪の旧石器展 (諏訪市会場) 展示図録』  
 戸沢充則 1958『長野県八島遺跡における石器群の研究 - 古い様相をもつポイントのインダストリー -』『駿台史学』第 8 号 駿台史学会  
 藤森栄一・中村竜雄 1964『霧ヶ峰雪不知の石器文化 - 雪不知型削器への注意 -』『考古学雑誌』第 50 巻第 2 号 日本考古学会  
 金井典美・石井則孝 1964『長野県霧ヶ峰物見岩遺跡調査概報 (第一次～第三次)』『考古学雑誌』第 50 巻第 2 号 日本考古学会  
 金井典美 1966『長野県霧ヶ峰物見岩遺跡調査報告 (第四次・第五次)』『考古学雑誌』第 52 巻第 2 号 日本考古学会  
 吉川国男 1959『奥霧ヶ峰の石器』『夕暮』第 3 号

## V 清水遺跡 (第11次)

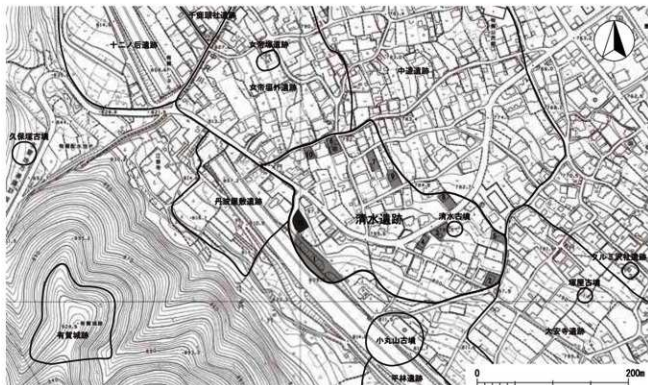
- |                                |                     |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. 所在地 諏訪市豊田町屋 4543-3 他        | 4. 調査目的 土地売買に係る有無確認 |
| 2. 調査期間 平成 30 年 12 月 12 日～17 日 | 5. 検出遺構 土器集中 (縄文)   |
| 3. 調査面積 8 m <sup>2</sup>       | 6. 出土遺物 土器 (縄文)     |

### 7. 遺跡概要及び調査概要

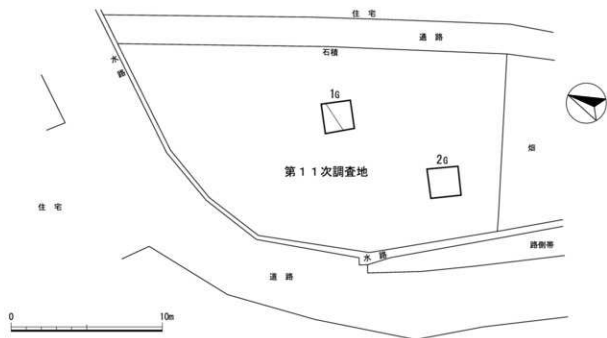
清水遺跡は諏訪湖西側の斜面地に立地する集落遺跡で、有賀峠直下に広がる中沢川扇状地の外縁にある (第 10 図)。有賀峠は諏訪盆地と伊那谷を結ぶ交通の要所としてしられる。清水遺跡は県道諏訪辰野線 (以下、県道) を挟んだ南北約 250m、東西約 250m の範囲で、北は女帝垣外遺跡・中道遺跡、東は大安寺遺跡、西は丹波屋敷遺跡と接しており、市内でも有数の遺跡密集地である。南には 6 世紀末頃に築造された小丸山古墳がある。西側に迫る山麓の頂端部には有賀城跡があり、丹波屋敷遺跡は居館の可能性が指摘されている。

清水遺跡では過去に 10 回の発掘調査を実施しており、弥生時代の竪穴建物跡が数軒と、縄文時代の遺構も検出されている。今回の調査地は中央自動車道西宮線 (以下、中央道) に隣接した側道沿いである。第 1 次調査である中央道建設範囲では遺物がわずかに出土したが遺構の検出はなかった (日本道路公団名古屋建設局ほか 1974)。このため当該地についても遺構等の分布する可能性は低いと想定されたが、試掘調査を実施したところ後述のように縄文中期の一括資料が検出された。

調査に至る経緯は、平成 30 年 11 月末、県道沿いの土地について農地転用申請を把握し事業者に確認したところ、隣接の宅地と一体で土地売買のうえ建て売り住宅の建設計画があるとのことであった。事業者と協議の結果、住宅については具体的な設計や配置は未確定であるので、試掘調査を実施したうえ



第 10 図 清水遺跡位置図 (S=1/5,000)



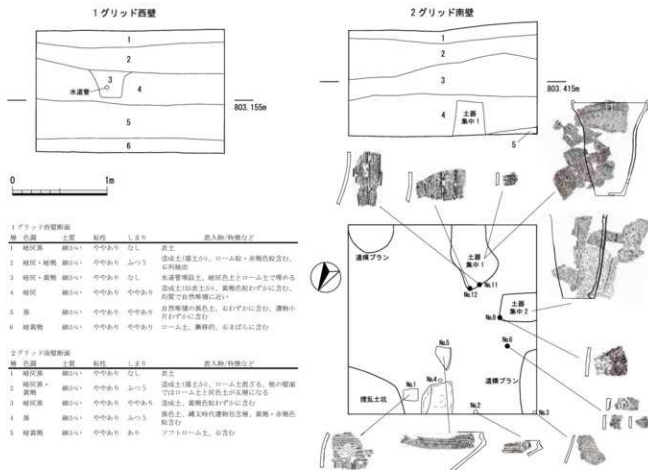
第11図 調査地全体図 (S=1/250)

で詳細設計をしたいとの要望があり、宅地部分の遺構等有无確認のための試掘調査を行うこととした。調査地は中央道建設前までは住宅が2軒あったが建設にあたり他に転出したようで、長らく更地の状態であった(第11図)。2m×2mのグリッドを2箇所設定し、人力により掘り下げを行った。その結果、1グリッドでは遺物小片が出土したが遺構はなく、4層以下自然堆積がローム土まで続いた(第12図)。ローム土検出面までの深さは約1.2m。断面の中ほどに以前あった住宅の水道管理設がでた。

5m離れた2グリッドでは黒色土中から縄文土器が多く出土し、当初は土層一括で取り上げたが、途中から残置しながらの掘り下げ作業に切り替えた。その結果、南壁際中央に1つ、西壁際に1つの同一個体とみられる土器集中を検出した。また、散在しているものの深鉢と浅鉢がみられた。遺構の性格については、竪穴建物の可能性が高いとみて慎重に掘り下げを行ったが、固く締まった面などは検出できず、漸移的にローム土に変化した。ただし、土器集中2は下半がローム土に接地した状態で、やや赤褐色に変色したローム土がみられたことから、グリッド外すぐの位置に炬がある可能性がうかがわれた。また、ローム土検出面で小円形の黒土平面プランが2箇所あり、柱穴などの可能性がある。検出面で残置した土器は記録作成後に取り上げを行ったが、調査目的が有無確認までのため、残した土柱はそのまま残した。この中に取り上げた土器と同一個体の破片が含まれている。

土器は垂直方向の分布では、土器集中1と散在した深鉢・浅鉢はローム土より約10cm高い範囲の黒土中にあった。土器集中2はそれらよりわずかに低い位置から現れ、下半(横に倒れた状態で検出)はローム土に接地していた。なお、土器以外の遺物はほぼなく、黒曜石の剥片7点8.6gがあっただけである。このことは遺構の性格や形成過程に起因している可能性もある。

出土した土器は第13・14図に図示したものである。破片を含めても限られた個体にまとまる様相がある。同時期の一括性の高い土器群と考えて良いだろう。1は土器集中1としたもので、いわゆる平出第Ⅲ類A式土器(以下、平出ⅢA)。現地保存したこともあり完形ではないが口縁部から底部まであり全体が分かる。口唇部は4単位の突起がついてその間を横に( )状の楕円沈線文で埋める。口縁は縦位に沈線文を巡らす。頸部で横位に( )状楕円沈線文が入り、以下はコンパスで描いたような半弧文

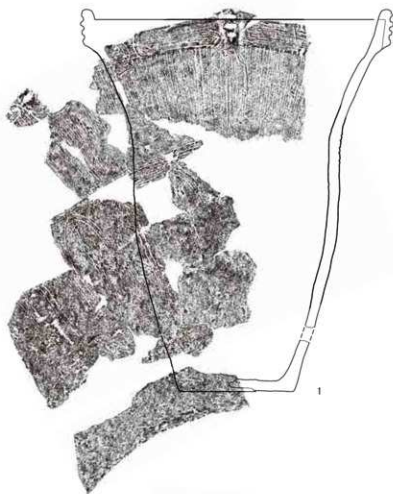


第12図 調査グリッド平面図・断面図 (S=1/40)

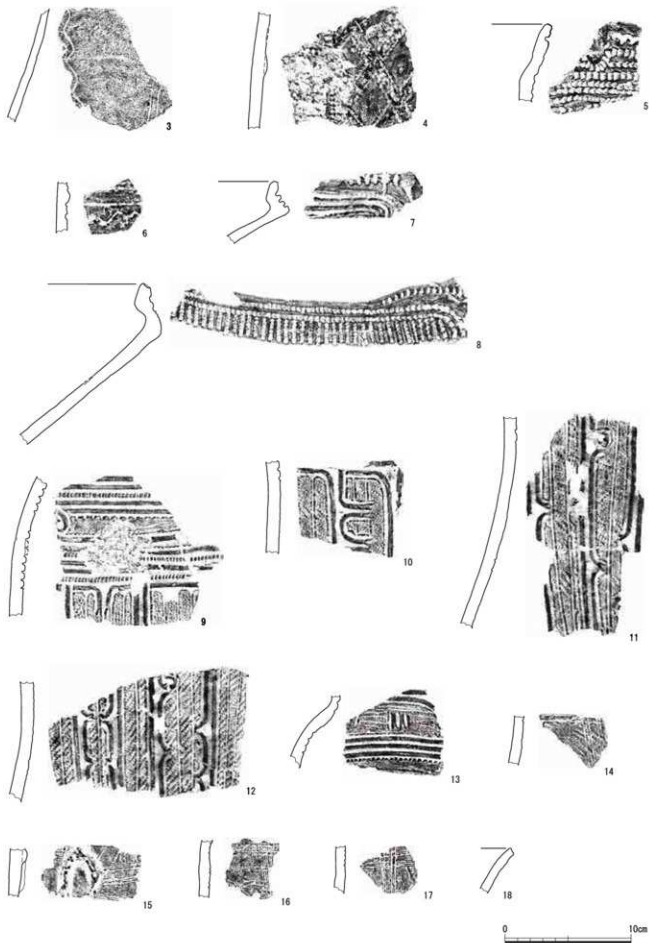
と垂下文。底部は丁寧に整形されて無文。一部灰色がかった褐色で、大きめの白色砂粒が入る。内面は炭化物が付着する。2 は土器集中 2 として取り上げた個体。頸部は横位の沈線で平出ⅢAの要素に、垂下隆帯が推定で5単位貼り付く。胴部や隆帯には縄文が散漫に施文される。隆帯の左右脇には2条一組の沈線が垂下する。隆帯の右側は波状で、左側は直線である。頸部は粘土繫ぎ目を境に欠損し、口縁部は出土していない。現地保存されていると推定。土器集中1とは胎土や器厚が異なり赤褐色で厚みはしっかりとあり、砂粒は目立つほどではない。内面には炭化物が付着する。平出ⅢAの変容形か、中期初頭段階の様様の残留だろうか。1と2は隣接し、検出した深さは1がやや高いが重複する範囲にある。

3は1とは別個体の平出ⅢA式土器。グリッド外に分布が続いているとみられる。4~6は猪沢式土器。7・8は浅鉢で、猪沢式から新道式期と推定。9~12は同一個体とみられる。太めの半箆竹管状工具による半隆帯文を多用し、また、胴部を半隆帯や沈線で縦位に区画する文様から、北陸地方に分布中心がある新崎式土器と推測する(加藤 1988・1995・2008)。9は胴部から口縁部にかけての破片で、文様構成は胴部が縦区画、頸部から口縁部は横区画になる。胴部は縄文を地文にして半隆帯文と沈線文で区画する。口縁部は半隆帯で一部は押しきり・連続刺突して加飾する。胎土焼成は当地域でもみられるものではある。施文は整っていてきれいに仕上げている。13は口縁部で、外傾して口唇部で緩く内湾する。文様から新崎式土器と推測する。半隆帯文で区画した内側は沈線で格子状に埋めており、縄文で埋める9~12とは異なる。赤黒い胎土焼成で搬入品の可能性もある。14は中期初頭~前葉にみられる縄文系の文様構成の破片。15~17はNo6として一括検出した同一個体で、脆く欠損して接合しない。縦・横に細く明瞭な沈線文を入れ、15は細い隆帯を逆Y字状に貼り付ける。伊那谷(とくに南部か)にみられる土





第13図 清水遺跡出土縄文土器（その1、S=1/3）



第14図 清水遺跡出土縄文土器 (その2、S-1/3)

第3表 清水遺跡出土縄文土器観察表

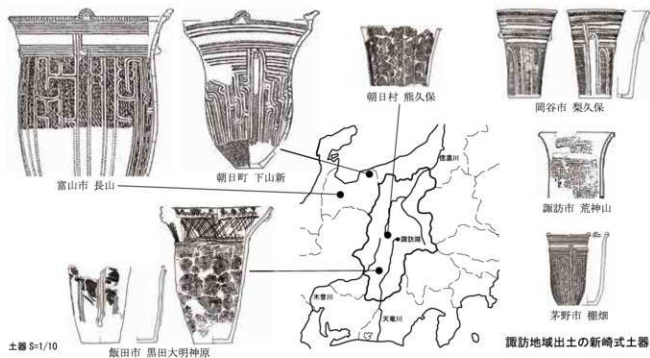
番号	時代	器種	法量 (cm)	整形・調整	構成	残葉・色調	胎土・特徴	出土位置
13001	縄文中期	土器深鉢	口縁(25) 底径(9) 器高(30.3)	内面 横ナゲ 外面 沈線、ナゲ 底部 削り、ナゲ	差	3/4枚 内面 暗赤褐色 外面 暗褐色	平出皿A式。砂粒(石葉、白色粒)含む。内面に炭化物・煤多量付着。口縁は胎土変色4単位で横線沈線文。胴部主は縦線沈線、両側横線沈線。胴縁縦線コンパス文と垂子凹状文。中期前葉	25土器集ち1
13002	縄文中期	土器深鉢	胴部径(17.8) 底径(9.8) 残存高(25.6)	内面 横ナゲ 削り、沈線、縄文、 隆帯 底部 削代痕	良好	胴~底部4/5枚 内面 暗赤褐色 外面 暗赤褐色	砂粒含む。胎土横線付の隆帯整形文で縄文施文。隆帯直に縦状文。左に平ナゲと太めの2条一組の縦線施文。タグツツ外に胴体部存在の可能性。中期前葉	25土器集ち2
13003	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ ナゲ、沈線	差	胴部小片 内面 暗褐色 外面 暗褐色	平出皿A式。細めの砂粒多量を含む。外面に赤く窪む。文様は丁寧にナゲと太めの2条一組の縦線施文。タグツツ外に胴体部存在の可能性。中期前葉	25%3
13004	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 隆帯、昇引文	差	胴部小片 内外面 暗赤褐色	胎土。砂粒・赤褐色含む。胎土を斜格子状に胎付けた左右を昇引文と赤褐色に染文。中期前葉	25%4
13005	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ 外面 昇引文、沈線	差	口縁小片 内外面 褐色	横状文。凹状沈線。砂粒含む。文様は半筒管状工具で縦状文と昇引文を密に施文。中期前葉	25%4
13006	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 昇引文	不良	口縁~胴部小片 内外面 淡赤褐色	溝状文。砂質胎土。細い、細い棒状工具で昇引文施文。山形や平行に施文。横線沈線。中期前葉	25土器集ち1
13007	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 ナゲ、削り、昇引文	差	口縁小片 内外面 暗赤褐色	砂粒多量含む。くの字に内野。3条の横線施文。山形や平行に施文。横線沈線。中期前葉	25%2
13008	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 ナゲ、昇引文	良好	口縁~胴部小片 内外面 暗褐色	砂粒含む。口縁から内面に黒塗。くの字に内野。横線付沈線文と縦線に右沈線文。突起し隆帯。口唇部に丸棒押し当て山形。突起し赤褐色の可能性あり。中期前葉	25%5
13009	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ 外面 ナゲ、半隆帯、沈線、 縄文	良好	胴部小片 内面 暗赤褐色 外面 赤褐色	新崎式。砂粒含む。胴部は縄文施文の縦線に半隆帯と沈線で区画。口縁は緑く赤反し横線半隆帯文で埋める。10~12と同一形体と推測。中期前葉	25%12・254層
13010	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 半隆帯、沈線、縄文	良好	胴部小片 内外面 暗褐色	新崎式。砂粒含む。縄文施文の縦線に半隆帯と沈線で区画。9・11・12と同一形体と推測。中期前葉	25%11・254層
13011	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ 外面 半隆帯、沈線、縄文	良好	胴部小片 内外面 暗褐色	新崎式。砂粒含む。縄文施文の縦線に半隆帯と沈線で区画。9・10・12と同一形体と推測。中期前葉	25%11・254層
13012	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 半隆帯、沈線、縄文	差	胴部小片 内面 暗赤褐色 外面 暗褐色	新崎式。砂粒含む。縄文施文の縦線に半隆帯と沈線で区画。半隆帯は凹状空せつ字状。9・11と同一形体と推測。中期前葉	25%1
13013	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 半隆帯、沈線	良好	口縁小片 内外面 暗褐色	新崎式。砂粒含む。赤褐色し隆帯で短く内野する器形。口唇部欠損。横線半隆帯で区画し。内面に沈線で胎子状に埋める。中期前葉	254層
13014	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ 外面 縄文、沈線	良好	胴部小片 内面 褐色 外面 暗褐色	砂粒含む白色粒多量。縄文施文に横線・斜線に沈線施文。中期前葉	254層
13015	縄文中期	土器深鉢	---	内面 横ナゲ 外面 隆帯、沈線、ナゲ	差	胴部小片 内外面 赤褐色	砂粒含む小石多量。細い。逆字状の粘土細粒付隆帯文。窪く鋭い沈線で横線に施文。隆帯に細い昇引文。16・17と同一形体。中期前葉	25%6
13016	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 ナゲ、沈線、半隆帯	差	胴部小片 内外面 暗褐色	砂粒含む小石多い。細い。縦線に沈線文。2条一組の沈線で半隆帯文を作る。15・17と同一形体。中期前葉	25%6
13017	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 ナゲ、沈線	差	胴部小片 内外面 赤褐色	砂粒含む小石多い。細い。縦線に沈線文。2条一組の沈線で半隆帯文を作る。15・16と同一形体。中期前葉	25%6
13018	縄文中期	土器深鉢	---	内面 ナゲ 外面 ナゲ	差	口縁小片 内外面 黒褐色	砂粒わずかに含む。赤反し口唇部は方形に面取り。内外面に炭化物付着。手づこ肌質感。中期	254層

器の可能性がある。18は口縁部で、胎土は縄文土器だが無文で口唇部を面取りする器形が異質である。

以上の土器は遺構の性格は不明ながら一括性は高いとみられ、様々な型式が混在する点が注目される。このほか、表土および造成土中から江戸時代に遡る陶磁器の小片がわずかに出土した。いずれも18世紀後半以降の製品とみられる。有賀城やその居館とみられる丹波屋敷遺跡に隣接しているが、中世に遡る遺構・遺物は出土しなかった。

## 8. 総括

今回の調査では予想に反して縄文時代中期土器の一括資料の検出をみた。縄文時代中期前葉から中葉にかかる頃の一群で、複数型式が含まれており、なかでも北陸地方の新崎式土器が出土したことは注目される。中南信に分布する平出皿Aとその変容的なもの、諏訪盆地から八ヶ岳・甲府盆地にみられる猪沢式、北陸地方の新崎式が含まれた(第15図)。新崎式土器は近くでは荒神山遺跡で出土しており(日本道路公団名古屋建設局ほか1975)、また、岡谷市梨久保遺跡(岡谷市教委1986)、茅野市棚畑遺跡(茅野市教委1990)や中ッ原遺跡(茅野市教委2003)でも出土している。諏訪地域では同型式の分布が大規模集落にある。梨久保遺跡や棚畑遺跡のものは小型であるが、今回出土したものはおそらく大型器形で、北陸で多く見られる円筒形(富山市長山遺跡)やキャリバー形(朝日町下山新遺跡)になるとと思われる。また、13図2は典型的な平出皿Aではなく、合致する類似は確認できなかった。



第15図 清水遺跡出土縄文土器の類例

胴部の縄文と垂下隆帯は中期初頭からの要素だろうか（飯田市黒田大明神原遺跡）。

年代観についてはそれぞれの土器で若干の時期差もうかがわれ、おおそ中期の前葉から中葉にかかる頃と推測される。朝日村熊久保遺跡では新縄文式土器が出土しており、同出土住居跡の土器群を基に前葉から中葉の様相について小口英一郎が検討されている（小口 2003）。清水遺跡で出土した資料群は小口の検討された前葉から中葉への過渡的な資料群と関連する。筆者の能力ではこれ以上の検討ができないが、今回出土した資料群は多岐にわたる縄文土器研究の祖上にあげられる価値があるだろう。

清水遺跡の過去調査では当該時期の遺構検出はなく、新たな時期と性格が加わったといえよう。調査結果は事業予定者に提供し、建築設計の参考にするよう依頼している。現状のまま保存が望ましいが、保護が叶わなくなった場合には、今回残置した遺物や遺構の性格・範囲の解明を果たしたい。

#### <引用・参考文献>

- 飯田市教育委員会 1999『黒田大明神原遺跡Ⅱ』
- 岡谷市教育委員会 1986『梨久保遺跡 第5次～第11次発掘調査報告書』
- 小口英一郎 2003『2号住出土土器の型式学的検討 - 松本盆地における中期前葉期の様相 -』『熊久保遺跡第10次発掘調査報告書 - 松本平西山山麓における縄文時代中期の集落址 -』朝日村教育委員会
- 加藤三千雄 1988『新保・新縄文式土器様式』『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
- 加藤三千雄 1995『北陸における中期前葉の土器群について - 新保・新縄文式土器 -』『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 加藤三千雄 2008『新保・新縄文式土器』『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 茅野市教育委員会 1990『棚畑・ハヶ岳西山麓における縄文時代中期の集落遺跡 -』
- 茅野市教育委員会 2003『中っ原遺跡』
- 長野県立歴史館 2014『縄文土器展 デコボコかざりのはじまり』信毎書籍出版センター
- 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会 1974『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 - 諏訪市内その1・その2 - 昭和48年度』
- 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会 1975『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 - 諏訪市・その3 - 昭和49年度』

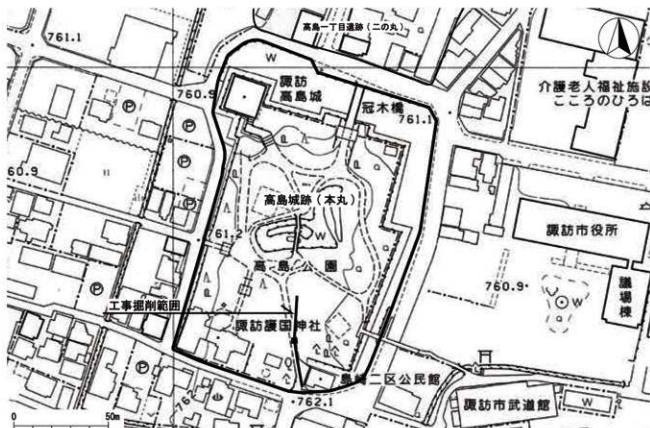
## VI 高島城跡（工事立会い）

- |         |                   |         |                        |
|---------|-------------------|---------|------------------------|
| 1. 所在地  | 諏訪市高島一丁目20        | 4. 調査目的 | 埋設管敷設替え工事              |
| 2. 調査期間 | 平成30年11月13日～12月7日 | 5. 検出遺構 | 遺物包含層                  |
| 3. 調査面積 | 30㎡               | 6. 出土遺物 | カワラケ・陶磁器・銭貨<br>(中世・近世) |
7. 遺跡概要及び調査概要

諏訪地域で唯一の近世城郭である高島城は、日根野高吉によって天正19年（1591年）頃から計画・築造されて、慶長3年（1598年）には完成したといわれる。その後、慶長6年（1601年）からは旧領復帰した諏訪家が幕末まで10代にわたり藩主を務め、居城した。本丸は南北約170m、東西約110mの長方形で、北側に二之丸・三之丸が連なる連郭式城郭である（中島 2018）。また、南には中上級の家臣屋敷が配され、南東には後に南之丸が造られた。築造当初は諏訪湖の岸にあって、周囲に河川を引き込んだ堀を巡らした水城・浮き城とも呼称される城であった。

本丸内は廃藩置県後に解放され、全ての建物は取り壊された。いくつかの建物は移転・再利用されている。明治9年には公園として開放、昭和45年には天守の再建を中心とした復興事業が大規模に行われ、園内の整備や冠木門・角櫓の再建がなされた。現在、市民や観光客の多く集まる城跡公園である。埋蔵文化財に関しては、現在まで発掘調査は行われたことはなく、復興事業での広範に及ぶ工事により遺構等に影響があったと考えられている。

今回、公園所管課により園内中央の池（心字池）排水管の入れ替え工事が実施されることになり、文



第16図 高島城跡位置図 (S=1/2,000)

化財保護法第 94 条による発掘通知の提出がなされた。現地の保護措置に関しては、既設管の入れ替えであることと、掘削幅が約 80 cm と狭小であることから、工事実施時の立会い調査とした。ただし、既設管より 20～30 cm 深い位置に入れる設計であったことから、遺構・遺物の出土も懸念され入念な立会いを行うこととした。

掘削は延長約 40 m で、幅は約 80 cm、深さは勾配をつけることもあって一律ではなかったが、およそ 80～90 cm 下を掘り下げ底とした。既設管を抜き取って同位置に新たな管を布設したが、北から約 15 m 辺りで既設管が屈曲して東側に徐々に走り、そのまま公園入口の石垣の下に埋設されていたことが判明した。このため、抜き取り困難な範囲についてはその西側へ新たな掘削となった。表土下 30～40 cm は碎石や近代以降に度々掘削などの手が入った堆積土、その下はローム土とみられる褐色土や黒色土との混合土が薄い層で数層みられる箇所があった。築城に伴う盛土の可能性があるだろう。この堆積からは近世の陶磁器が数点出土した。既設管の下を掘削すると、ちょうど掘り下げ底あたりで暗灰黒色土に変化した。この土は最終的に掘削延長の全体に及んでおり、基盤土のような堆積である。この土中からカワラケや灰釉陶器の小皿や鉄軸天目碗、永楽通宝が出土した。

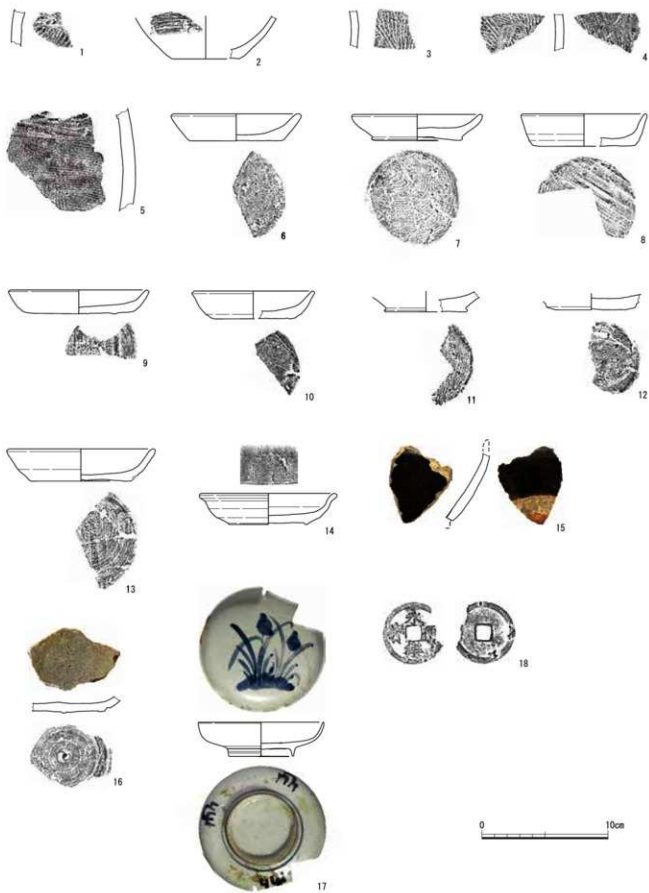
カワラケは細かく分類すると 1 点ごと異なるような個体差があるが、ある程度そのままでも感じられる様相である。口径が 10 cm 台で底部は回転糸切りのままが多い。見込みを指の腹で横方向に一度で広範に広げるものが複数ある (6・8・9・13)。8・9 は底部に波板状の凹凸痕がつく。灰釉陶器の端反皿は口径 11 cm、器高 2.4 cm、見込みに 16 葉の菊花文の押印がある。瀬戸窯大窯期の 1～2 型式期の製品とみられる (公益財団法人瀬戸市文化振興財団 2015)。天目碗は鉄錆軸掛けで外面下端は無釉、削り整形している。口縁と底部がないため比定が難しいが 16 世紀代だろうか。掘削南端から北へ 13 m 辺り、東西に別の配管が通った北側の暗灰黒色土から永楽通宝が出土した。状態は良好で発見時に一部を欠損した。永楽通宝は市内では大熊城跡や隣接する荒神山遺跡・大熊道上遺跡で出土しており、中世山城と居館などとみられる (諏訪市 1995)。また茅野市では中尾遺跡の 41 枚を筆頭に 7 遺跡で 57 枚が出土している (茅野市ハケ岳総合博物館 2017)。いずれも中世の遺跡とみられる。永楽通宝は江戸時代初頭まで用いられたが、諏訪地域での傾向から高島城で出土したものとその包含土は中世に属すると考えたい。

近世遺物では完形の磁器小皿が出土した (重機により口縁破損)。見込みには菖蒲 (あるいは水仙か)、外面には源氏香文を 3 単位。器面は全体的にしっとりとした感触で使用による摩耗なのか製品特性なのかははっきりしない。肥前窯産で 17 世紀後半から 18 世紀中頃の製品と推測する。ほかには後期から幕末になりそうな磁器片が数点ある。出土遺物の多くは中世に属するものである。

## 8. 総括

工事立会いながら多くの遺物が出土したことは大きな成果であり、しかもそれらの多くが中世に遡るもので、高島城築城以前に該当することは驚きであった。そこで最も問題になるのは、今回出土した遺物と、遺構の性格・築城以前の土地利用との関係についてである。遺物の出土した暗灰黒色土は現地表面から約 80 cm 下である。本丸周囲の現状地盤標高は本丸内より 1～3 m 程度低い。つまりは、遺物包含層の深さは築城の盛土が行われる以前から周辺に比べて高い地盤面にあったとみられる。出土遺物がカワラケ・灰釉端反皿・天目碗などである点は、集落以外か集落内でも住居とは性格の異なる施設があった可能性もあるだろうか。

本丸北側の二之丸跡 (高島一丁目遺跡) ではやはり中世に遡る遺物が出土し、また、遺構も検出して



第17図 高島城跡出土遺物 (S=1/3、18のみ1/1.5)

第4表 高島城跡出土遺物観察表

番号	時代	器種	法量 (cm)	形状・装飾	地成	数量・色調	動土・特徴	出土位置
1700	1	縄文 土器 深鉢	口径 底径 器高 — — —	外面 縄文	良好	1個	細密、砂粒含む、外側にわずかに削れるため深鉢と深鉢の区別も、縄文縄文	南端から北に6-9m 黒土～黄褐色土
1701	2	古墳 土師器 杯	— (5.4) —	口タロ成形 内面 横位に細いミガキ 外面 ミガキ、沈線	良好	1個	底面～体部小片 内外面 赤褐色	南端から北に6-9m 黒土～黄褐色土
1702	3	古墳 土師器 壺?	— — —	内面 磨削 外面 黒毛直履	不良	1個	口タロ成形 内外面 褐色	北端から南に6.6m 横土北
1703	4	古墳 土師器 壺	— — —	内面 黒毛直履 外面 平行叩き、ナゾ	良好	1個	細密、砂粒含む、平底で内溝する体部、外面は太めのミガキ、横位に沈線とハの字状連続線 底、古墳時代のものか	南端から北に6-9m 黒土～黄褐色土
1704	5	古墳 土師器 壺	— — —	外面 横黒毛ナゾ 内面 ナゾ	良好	1個	砂粒含む、器厚厚い、大径だが、内面は横位に黒毛ナゾ直履、土上に粘土層あり、外面はナゾ附り、古墳時代のものか	南端から北に6-9m 黒土～黄褐色土
1705	6	中世 中世 カワラケ	(10.4) (7.4) 2.15	口タロ成形 底面 回転車切り、削り	並	1/4残存 内外面 赤褐色	砂粒含む、底面回転車切り後削りで平ら、体部立ち上がり削削で器厚厚い、内底面は限の量しかおで全面を一気に横ナゾ	北端から南に8m 灰土～黒土
1706	7	中世 中世 カワラケ	(10.4) (7.2) 2.1	口タロ成形 底面 回転車切り	並	2/3残存 内外面 赤褐色	底面回転車切りのままであり残存、厚ぼったい、体部大きく外傾	北端から南に10m 底面黒土
1707	8	中世 中世 カワラケ	(10) (8.1) 2.55	口タロ成形 底面 回転車切り、板状凹凸	良好	2/5残存 内外面 赤褐色	砂粒含む、平底と垂れぎみに立つ体部、底面は回転車切りのままで、板状凹凸は深い箇所が、内底面は全体を一気に横ナゾ、体面にのみ	南端から北に6-9m 黒土～黄褐色土
1708	9	中世 中世 カワラケ	(11.2) (8.8) 1.85	口タロ成形 底面 回転車切り、板状凹凸	良好	1/4残存 内面 赤褐色 外面 灰	細密、砂粒少量含む、底面回転車切りのままで、板状凹凸、内底面は全体を一気に横ナゾ、口部縁角を作るようにならぬ	中央集水排水方溝 埋土と土層間の 隙
1709	10	中世 中世 カワラケ	(8.8) (6.6) 2.2	口タロ成形 底面 回転車切り	不良	1/5残存 内外面 赤褐色	底面回転車切り、地成割に難い	北端埋割前直黒土
1710	11	中世 中世 カワラケ	— (6.4) —	口タロ成形 底面 回転車切り	並	底面小片 内外面 赤褐色	細密、砂粒含む、底面は回転車切りのままで	南端から北に17.3 m重埋
1711	12	中世 中世 カワラケ	— (7.1) —	口タロ成形 底面 回転車切り	並	底面小片 内外面 赤褐色	細密、砂粒含む、底面は回転車切りのままで粘土厚く残存	北端埋割前直黒土 と黄褐色土の境
1712	13	中世 中世 カワラケ	(11.8) (8) 2.5	口タロ成形 底面 回転車切り、削り	良好	1/3残存 内外面 褐色	細密、砂粒含む、底面は回転車切り後に粗く削る、内底面は全体を一気に横ナゾ、器厚薄、本家産と見作	南端から北に12-13 m底面黒土
1713	14	中世 灰釉陶器 陶碗(皿)	(11) (8.2) 2.5	口タロ成形 内面 菊文押印 底面 削り出し高台	良好	1/2残存 内外面 赤褐色 底面 灰白色地に黄褐色釉	内底面に菊文押印、16世紀、口縁は細く外折、高台は短く高台部分に削り出し、瀬戸製陶家、大塚園1〜2期、15世紀後半〜16世紀前半	北端から南に8m 削り灰土～黒土
1714	15	中世 陶器 天目埴	— — —	口タロ成形 内外面 磨削除け	良好	体部小片 内外面 黒茶褐色	黒色釉塗りに口縁は赤褐色色、内面わずかに平文	北端から南に10m 黒土
1715	16	中世 陶器 埴	— — —	口タロ成形 底面 削り出し高台	良好	底面小片 内面 赤褐色 外面 灰灰台・黒灰	削り出し高台、内面釉塗ったとみられるが、二次焼成で染黒・割割か	南端から北に25m
1716	17	近世 磁器 小皿	— — —	口タロ成形 内外面 無文	良好	ほぼ完好 内外面 乳白・青	小皿(手廻し)、見込は薄縁?、外面に黒灰赤文、内面は磨削して灰欠く	埋土から南に1.8 m底面灰褐色～黄褐色土
1717	18	中世 陶磁 赤銅土	縦 横 厚さ 2.45 — 0.12	磨削	—	一部欠損 裏面 緑褐色	状態良好、文字明確、重量2.0g	南端から北に13m

いる(諏訪市教育委員会 2003・2007)。報告書では、調査地で内耳土器や土錐が多く出土している点から築城以前にあった漁村「高島村」の可能性を指摘している。今回の工事では内耳土器や土錐は1点も出土しておらず、本丸北側の遺構と同時期に併存していたとしても、その性格を異にしていると考えられる。今回は狭小な工事立会いであり、これ以上の考察は成さないが、近世城郭の置かれた「高島」一帯は、元々微高地であって、集落などがあったということがより確実になっただろう。

本丸内は公園として大きく改変されており、遺構・遺物の残存状況は悪いと思われてきた。しかしながら、今回の成果から場所や深さによっては遺構・遺物が残されていること、そして近世だけでなくそれ以前からの遺跡形成もあることを念頭におき、今後の調査・研究に生かしたい。

<引用・参考文献>

- 愛知県 2007 『愛知県史 別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』
- 公益財団法人瀬戸市文化振興財団 2015 『戦国時代の瀬戸窯 - 古瀬戸から大塚へ -』
- 諏訪市 1995 『諏訪市史 上巻』
- 諏訪市教育委員会 2003 『高島一丁目遺跡発掘調査』『市内遺跡発掘調査報告書(平成14年度)』
- 諏訪市教育委員会 2007 『市内遺跡発掘調査報告書(平成18年度)』
- 茅野市八ヶ岳総合博物館 2017 『茅野市の中世遺跡』
- 中島逸 2018 『高島城』『甲信越の名城を歩く 長野編』吉川弘文館



## Ⅶ 精進湯跡（工事立会い）

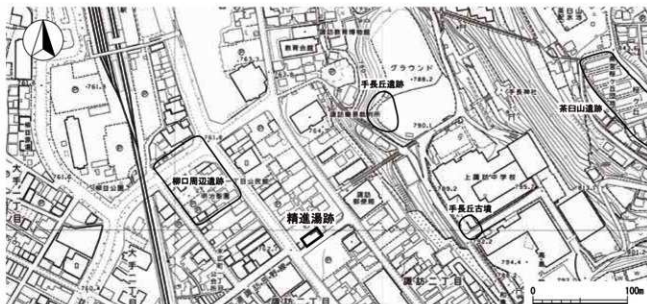
- |         |               |         |               |
|---------|---------------|---------|---------------|
| 1. 所在地  | 諏訪市諏訪一丁目5番16号 | 4. 調査目的 | ビル解体工事        |
| 2. 調査期間 | 平成30年11月27日   | 5. 検出遺構 | 遺物包含層         |
| 3. 調査面積 | 4㎡            | 6. 出土遺物 | 陶磁器・銭貨（近世・近代） |

### 7. 遺跡概要及び調査概要

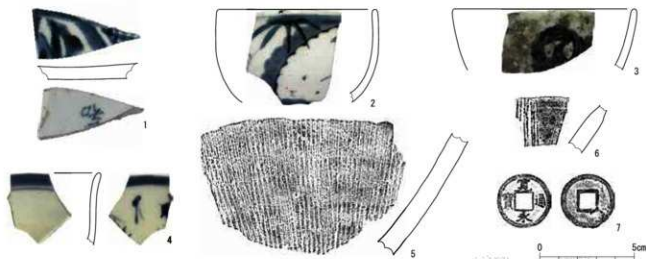
精進湯は上諏訪の国道20号線（甲州道中）沿いにあり、近年まで利用されてきた温泉浴場である（第18図）。当該地での温泉・浴場の創設は定かではないが、高島藩の三代藩主諏訪忠晴が寛文4年（1664年）に制作を命じたとされる『御枕屏風』（八剱神社所有・市有形文化財）には「精進湯」が描かれている。「精進」の名は、近在する手長神社へ身を清めて参拝する・精進潔斎という意味から名付けられたと言われている。手長神社は下桑原村の産土神で、また江戸時代には高島城下の人々の鎮守でもあった。同地は近代以降も温泉浴場として利用され続け、昭和52年からは市営の浴場となった。

今回の調査は昭和53年に建築された市営「精進湯ビル」の解体工事に伴い実施した。建物は1階が温泉浴場、2階・3階は貸事務所として使用されていたが、利用者の減少や施設老朽化もあり、平成29年3月末に営業を終え、平成30年11月から12月にかけて建物解体整地工事を実施し、現在は碎石敷きの更地となった。当該地は近世前期に遡る温泉浴場の設けられた場所であることは確実であり、城下町の一角である。過去に発掘調査などは行っておらず状況が不明であったため、地下遺構等の有無や残存状況を確認することを目的として、建物解体時に立会い調査を実施した。

調査の結果、敷地の全体にわたって表土下約60～80cmは建物建設による造成が加わっていることが確認された。そして、その下層には松とみられる丸太材および縦方向に半裁した木材が水平方向に敷かれたような状態で検出された。時期の特定ができないが、沈下防止・地盤改良のための構築物と推測した。その下の堆積土からは、わずかではあるが近世遺物が出土した。堆積土は湧水の多い砂質暗灰色土で、さらに掘り下げるとスクモ層堆積に達するとみられる。遺物は細かく割れた小破片の状態で、土中



第18図 精進湯跡位置図（S=1/4,000）



第19図 精進湯跡出土遺物 (S=1/2、7のみ1/1.5)

第5表 精進湯跡出土遺物観察表

番号	時代	器種	法量 (cm)	形状・調整	構成	残量・色調	出土・特徴	出土位置
19図1	近世	磁器 皿	— — —	口径成形 内外面 染付	良好	底部小片 内外面 白色地に染付	底部「口知」、肥前窯産、江戸後期か	造成土
19図2	近世	磁器 碗	(8.4) — —	口径成形 内外面 染付	良好	口縁部小片 内外面 白色地に染付	高森窯、肥前窯産、江戸後期	埋戻砂～スクモ層
19図3	近世	磁器 碗	(9.6) — —	口径成形 外面 染付	良好	口縁部小片 内外面 白色地に染付	外面に龍丸文字、穴貫または土層により器面汚 れ、肥前窯産、江戸後期以降	埋戻砂～スクモ層
19図4	近世	磁器 碗	— — —	口径成形 内外面 染付	良好	口縁部小片 内外面 白色地に染付	字杯、瀬戸美濃窯産、江戸末期～明治期	造成土
19図5	近世	陶器 種鉢	— — —	口径成形 内面 刻み 外面 磨輪跡付	良好	体部小片 内外面 黒～黒褐色	磨輪条線は甚、瀬戸美濃窯か	造成土
19図6	近世	陶器 種鉢	— — —	口径成形 内面 刻み	良好	体部小片 内面 茶褐色 外面 黒褐色	条線の目利、瀬戸美濃窯か	埋戻砂～スクモ層
19図7	近世	銅貨 寛永通宝	縦 横 厚さ 2.2 2.2 0.1	鋳造	—	完全 表面面 緑褐色	状態良好、文字明瞭、重量2.0g	埋戻砂～スクモ層

に万遍なく含まれていた。この状況は生活面として存在したのではなく、二次的な堆積の結果である可能性もある。

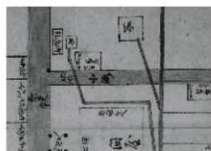
出土遺物は江戸時代後期から近現代のものまでであったが、堆積土の下層では江戸時代のもので占められ新しい時期の造成は加わっていない部分もある。磁器は肥前窯と瀬戸美濃窯があって碗類と皿を確認した(第19図)。1は皿の底部小片とみられ、肥前窯産。窯印なのか「…和」とある。2・3は肥前窯産の碗。3は火災か埋藏土壌の影響により表面に汚れが付着する。4は幕末頃の瀬戸美濃窯産湯呑碗でいわゆる字杯。陶器では播鉢や灰釉小皿がある。5と6は時期が異なるとみられる。7は掘り下げた最も深い堆積土より出土した寛永通宝である。直径22mmでやや小径。残存状況は良い。解体建物の基礎直下からは近代陶磁器などが出土した。温泉や浴場との関連がありそうな遺物は確認されず、生活雑器で構成されている。これらの遺物は当該地の性格・利用状況を反映しているのであろうか。

## 8. 総括

今回は未周知であるものの遺跡であることが確認された場所であったことから、所管する水道局の理解も得ながら立会い調査を行った。その結果、近世に遡る遺物が確認され、また、時期が不確定ながら木材を利用した何らかの施工痕跡も確認した。精進湯の構造やその詳細についてはほとんど不明であり、城下を描いた絵画資料の中に断片的な情報はうかがい知れる(第20図)。甲州道中と東に並行する裏町の通りに挟まれた土地は、その中央に水路が入って区切られ、それぞれの通りに面して短冊状に地割りがなされる。精進湯のあった土地は甲州道中沿いには高札場があり、東に「湯」と記す建物表現が



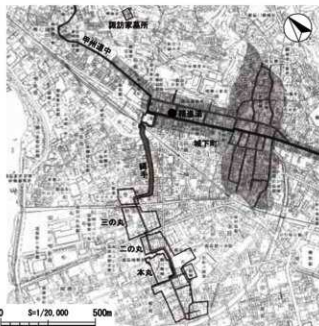
「上諏訪絵図」部分 延宝元年(1673)



「上諏訪宿図」部分 享和三年(1803)以前

絵図の上が北西 2点とも間藤小平家文書 諏訪市博物館所蔵

第20図 精進湯の配置と構造



地図 中島清徳氏

第21図 高島城と城下町の範囲

ある。建物には水路から分岐する水路表現がある。「上諏訪宿図」には大小の湯があり、それぞれに水路が通る。この水路の用途は温泉への加水のためであろうか。間には「馬差」の建物もあったようである。精進湯の南は「湯小路」を挟んで問屋があり、これより南は上諏訪宿となる。

高島藩の城郭・城下町については、本丸跡は包蔵地整備の当初から指定していたが、二之丸跡は平成14年に指定、三之丸跡はまだ未指定である(第21図)。また、本丸南側の武家屋敷地も部分的な指定に留まっており、「城郭」といわれる範囲でも保護の網を掛けられていない。「城下」についてはほぼ未指定で、甲州道中から城内に入る「柳口」役所跡一帯については平成20年に包蔵地指定し調査を実施した。近世城下町遺跡の保護や埋蔵文化財調査については、近年では一般的に行われるようになってきており、多くの成果がある(長野県立歴史館2016)。長野県内でも松本城下や松代城下はいち早く包蔵地指定のうえ、調査を実施している。また、飯田城下や上田城下でも近年多くの調査が実施されている。諏訪市では公共開発事業に伴って事前に試掘を実施し、その成果を基に部分的な包蔵地指定を進めてきた。しかしながら、城郭・城下町の全体的な包蔵地指定と保護の必要性は必須な情勢といえる。市民理解を得ながら指定へと進めて行きたい。その際、範囲をどうするかには課題がある。高島の城下は上諏訪と連続していて未分化・一帯的でもある。宿場の保護については、町並みなどが指定されている事例は県内でも多いが、包蔵地として広範に指定しているところはないようである。高島城下の上諏訪のまちをどう捉え、どこまでの範囲を包蔵地の網を掛けるか、十分に検討する必要がある。その足掛かりという意味でも、精進湯跡の成果は重要である。

上諏訪地区は古くから温泉が数多く湧き、その利用も盛んであった。江戸時代には、三之丸御殿内に引き湯した湯殿があり、本丸内にも温泉利用があったともいわれる。また、城下には精進湯・虫湯・小和田・湯の脇に温泉施設があった。高島城下は豊富な自然資源「温泉」を利用した城下町であった。その一角である精進湯について、若干ではあるが様相が把握されたことは有益であったといえる。

#### <引用・参考文献>

長野県立歴史館2016『信濃国の城と城下町・発掘調査が謎を解く-』

# 写真図版



温泉寺横遺跡 調査地遠景 (東から)



調査地全景 (南から)



1 グリッド完掘 (南から)



1 グリッド完掘 (東から)



2 グリッド完掘 (南から)



2 グリッド完掘 (北から)



3 グリッド完掘 (南から)



3 グリッド底面 遺物出土状況 (第5図4)





4 グリッド完掘 (南から)



5 グリッド完掘 (東から)



5 グリッド完掘 (南から)



遺物出土状況 (南から)



工事立会い 黒耀石原石採集時の状況 (西から)



採集された原石 (横の長さ約 25cm)



第2駐車場南壁部分 掘削後 (西から)



市道拡幅部分 掘削後 (北から)



八島ヶ原湿原遠景（鷲ヶ峰稜線から 三角の交点が調査地）



鎌ヶ池遺跡隣接地 調査地全景（西から）



1グリッド完掘（東から）



1グリッド南壁（北から）



2グリッド完掘（南から）



2グリッド北壁（南から）



2グリッド東壁から南壁（北西から）



清水遺跡 調査地遠景 (南から)



調査地全景 (北から)



1 グリッド完掘 (南から)



1 グリッド西壁 (東から)



2 グリッド完掘 (南から)



2 グリッド遺物出土状況 (東から)



土器集中1 (13 図1) とNo.11・12 (右端 14 図9・11)



土器集中2 (下位 13 図2) とNo.8 (上 14 図4)





高島城跡本丸内 掘削工事の様子 (南から)



掘削工事北端 (南から)



カワラケの出土状況 (第17図7)



永楽通宝の出土状況 (配管の右側 底面黒色土から)



石垣下に埋設されていた既設管 (南西から)



築城時と推測される盛土 (北西から)



集水樹設置部分の掘方 (手前) と南側掘削 (北から)



磁器小皿の出土状況 (第17図17)



精進湯跡 建物解体現場（南から 奥の森が手長神社）



建物建設時に造成された深さ（南東から）



試掘坑（北から）



試掘坑南東壁（北西から）



木材の確認状況（北東から）



解体現場中央の地下から出土した木材



加工されている木材（内側）



加工木材（同左 外側）



温泉寺横遺跡出土遺物



清水遺跡出土縄文土器（その1）



清水遺跡出土縄文土器（その2）





高島城跡出土遺物



精進湯跡出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくちょうさほうこくしょへいせいさんじゅうねんど
書名	市内遺跡発掘調査報告書（平成30年度）
副書名	長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第79集
編著者名	児玉利一 池谷 信之
編集機関	諏訪市教育委員会
所在地	〒392-8511 長野県諏訪市高島1-22-30 電話0266-52-4141
発行年月日	平成31（2019）年3月29日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
おんせんじょういせき	ずわしゆのわらいちゅうめ						
温泉寺横遺跡	諏訪市湯の脇一丁目10690-1他	202061	15	36° 02' 58"	138° 07' 08"	20180423 ～ 20180427	10 駐車場建設
かまがいのいせきりんせつち	ずわしかみすわ						
鎌ヶ池遺跡隣接地	諏訪市上諏訪7718-12	202061	422	36° 07' 17"	138° 10' 17"	20180911 ～ 20180913	4.5 公衆トイレ建設計画
しみずいせき	ずわしちよだまらや						
清水遺跡	諏訪市豊田町屋4543-3他	202061	311	36° 01' 05"	138° 05' 02"	20181212 ～ 20181217	8 土地売買事前調査
たかしまじょうあと	ずわしたかしまいっちゅうめ						
高島城跡	諏訪市高島一丁目20	202061	43	36° 02' 18"	138° 06' 44"	20181113 ～ 20181207	30 埋設管敷設替え工事
しょうじんのあと	ずわしむかいちゅうめ						
精進湯跡（未周知）	諏訪市諏訪一丁目5-16	202061		36° 02' 39"	138° 07' 07"	20181127	4 建物解体工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
温泉寺横遺跡 （第3次）	生産	旧石器・近世		石器・陶磁器		尖頭器製作に係る石器群が出土	
鎌ヶ池遺跡隣接地 （第1次）	散布地	旧石器				分布なし	
清水遺跡 （第11次）	集落	縄文	土器集中	土器		縄文中期の一括資料が出土	
高島城跡 （工事立会い）	城館	中世・近世		カワラケ・陶磁器・鉄貨		本丸下層に中世遺跡が存在	
精進湯跡（未周知） （工事立会い）	未周知	近世・近代		陶磁器・鉄貨		城下町遺跡と認められる	
要 約	・温泉寺横遺跡 第3次：黒曜石製の尖頭器などが出土。また、江戸時代前期の陶磁器片が出土した。 ・鎌ヶ池遺跡隣接地 第1次：遺構・遺物なし。 ・清水遺跡 第11次：縄文時代中期前半から中葉の土器集中を検出。遺構の性格は不明確だが堅穴建物や土器集積遺構の可能性もある。北陸の新崎式土器と平出第Ⅲ類A・碓沢式土器の一括資料。 ・高島城跡 工事立会い：築城盛土の下層に中世遺物の包含層を検出。15世紀後半～16世紀代の遺物が出土。 ・精進湯跡 工事立会い：江戸時代後期以降の陶磁器が出土。						

### 市内遺跡発掘調査報告書（平成30年度）

— 長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書 —

発行日 平成31（2019）年3月29日

編集・発行 諏訪市教育委員会

長野県諏訪市高島1-22-30

印刷 有限会社増澤印刷所